

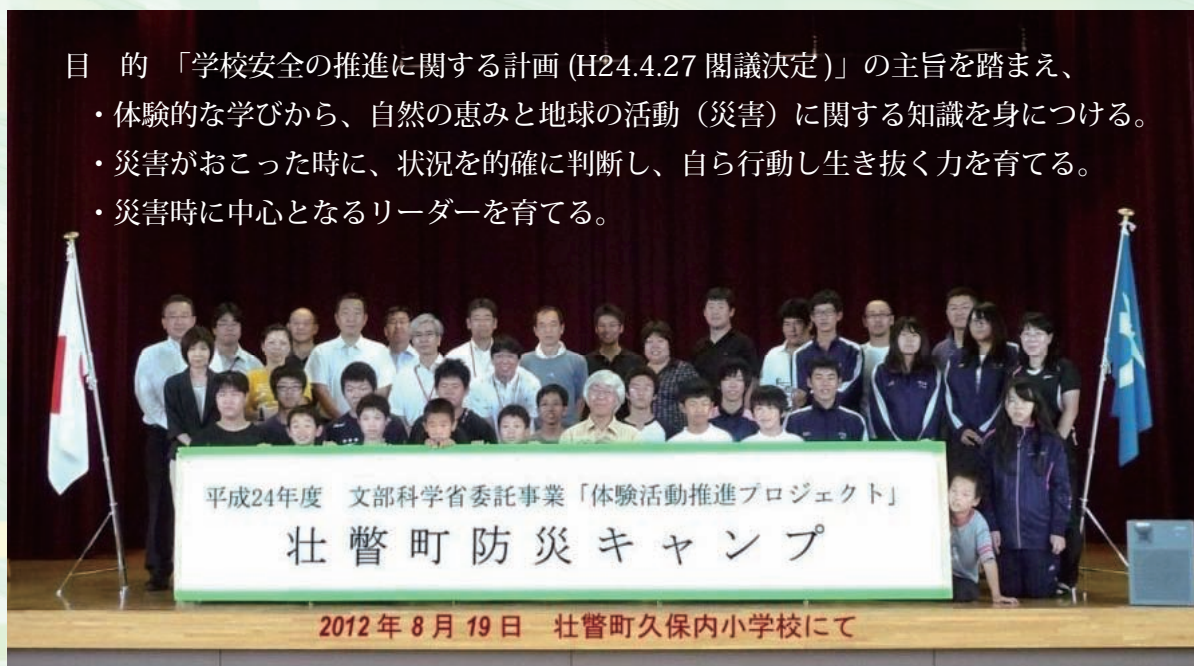
平成24年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」

## 壮瞥町防災キャンプ事業

—変動する大地との共生を目指して—

# 報告書

- 目的 「学校安全の推進に関する計画(H24.4.27閣議決定)」の主旨を踏まえ、
- ・体験的な学びから、自然の恵みと地球の活動(災害)に関する知識を身につける。
  - ・災害がおこった時に、状況を的確に判断し、自ら行動し生き抜く力を育てる。
  - ・災害時に中心となるリーダーを育てる。



### 2日目のフィールド学習：昭和新山登山学習会



北海道壮瞥町教育委員会

## はじめに

平成 23 (2011) 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、我々人類が“生きている星 - 地球”の一部であることを再認識させました。

噴火や地震、津波は、地球の活動、「自然現象」として引き起こされています。この自然現象が、風光明媚な景観、地質・地象全てを創造し、多くの恵みを我々に与えています。

防災教育は、このような基本認識のもとで推進されるべきです。

昭和 52 (1977) 年から 4 年余継続した有珠山の火山活動が終息した直後の昭和 57 (1982) 年、壮瞥町教育委員会は、北海道教育委員会と共催で「郷土の認識－火山の探求－」をテーマに北海道大学から講師陣を招き、9 回にわたる「北海道市民大学講座」を開催しました。またその翌年の 1983 年からは「子ども郷土史講座」を毎年開催する等、活火山の懐で「火山と共生する地域づくり」を基本理念に、自然の恵みと自然災害について学ぶことを目的とした社会教育事業を数多く実施してきました。

これらの活動は「第 1 次火山噴火予知計画(昭和 49(1974)年発足。当時の文部省測地学審議会建議)」に基づき、昭和 52(1977)年に壮瞥町壮瞥温泉に整備された北海道大学有珠火山観測所の研究者や地域の有識者たちにより長年支えられてきました。

平成 12(2000)年の有珠山噴火で人的な被害がなかったのは、火山への正しい理解が進み、専門家と住民・行政間で「顔の見える関係」が構築されていたことが大きな要因です。これは当地域固有の文化であり、その後、洞爺湖有珠山ジオパークの活動に受け継がれています。

こうした地域の特色を生かして、文部科学省の新たな委託事業である「防災キャンプ」を、平成 24(2012)年 8 月に久保内小学校を会場として実施しました。「釜石の奇跡」として全国的に注目された防災教育の推進者、元釜石市消防防災課長末永正志氏による講演や避難所設営、フィールド学習等の 2 泊 3 日の体験を通して、参加した小中高生など 30 名と教職員、町職員などサポーター 33 名は、自然との共生を学ぶ機会となりました。

有珠山の事前避難や東日本大震災等の大規模災害で、危険を回避した多くの好事例は、徹底して繰り返し実践された「教育の成果」であり、それに携わった学識者、教職員、地域リーダーなどによる努力の賜物といえます。

「自分の命は自分で守る」ことは防災の基本であり「生きる力を育む」ことは教育の普遍的な使命です。地球（自然）の側に軸足を置き、百年・千年後の地球に思いを馳せ、社会基盤の在り方を考える「目」を育成することも大切です。

今回の震災を教訓として、各学校で、学習指導要領に基づく、より系統的で計画的な防災教育が実践されること、平成 24(2012)年 4 月 27 日に閣議決定された「学校安全の推進に関する計画」に基づく施策事業を、社会教育分野とより密接に連携して推進することにより、今後より一層、我が国の「安全文化の構築」が進展することを願っています。

終わりにになりましたが、この委託事業の実施にあたり、ご協力をいただきました北海道大学名誉教授・壮瞥町防災学識アドバイザー岡田弘先生をはじめ、実行委員として参画していただいた関係各位にお礼を申し上げます。

平成 25 年 2 月

壮瞥町教育委員会  
教育長 田鍋敏也



## 目 次

1 全体概要	P 4
2 高校生リーダー研修等	
1) 第1回 平成24年8月2日(木)	P 5
2) 第2回 平成24年8月9日(木)	P 6
3) 町職員(スタッフ)研修	P 7
3 防災キャンプ	
1) 1日目 平成24年8月17日(金)	P 8
2) 2日目 平成24年8月18日(土)	P 19
講演「東日本大震災からの教訓」 元釜石市消防防災課長 末永 正志 様	P 25
3) 3日目 平成24年8月19日(日)	P 33
ふりかえりと全体会	P 35
4) 防災キャンプ会場(久保内中学校校舎)平面図	P 39
5) 参加者アンケート	P 40
6) 教育局長レポート	P 43
7) 防災キャンプ事業に関係した皆さん	P 44
4 参考資料	
1) 参加者へ配布した資料等	P 49
・防災キャンプのしおり	
・防災キャンプ資料	
2) 学校安全の推進に関する計画(抜粋)	P 51
3) 実行委員会設置要項	P 52
4) 久保内小学校の防災計画	P 53
5) 新聞報道・学校だよりなど	P 59



防災キャンプ会場 壮瞥町立久保内小学校

# 1 全体概要

- 1) 名称 平成24年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」  
**壮瞥町防災キャンプ** –変動する大地との共生を目指して–
- 2) 目的
- ・体験的な学びから、自然の恵みと地球の活動（災害）に関する知識を身につける。  
 洞爺湖有珠山ジオパーク／フィールドワーク  
 室蘭地方気象台による気象実験 西胆振消防組合伊達消防署壮瞥支署見学
  - ・災害がおこった時に、状況を的確に判断し、自ら行動し生き抜く力を育てる。  
 元釜石市防災担当課長末永正志先生、岡田弘先生の講話  
 避難所の設営と避難生活の体験
  - ・災害時に中心となるリーダーを育てる。  
 グループ活動を通じた高校生リーダーの養成

## 3) 全体日程

### (1) 高校生リーダー研修会

- 第1回 日時 平成24年8月2日（木）13:00～14:50  
 会場 壮瞥町地域交流センター山美湖多目的ホール  
 内容 自己紹介、役割の確認と講話
- 第2回 日時 平成24年8月9日（木）13:00～15:00  
 会場 壮瞥町地域交流センター山美湖2階研修室  
 内容 防災DVD観賞 キッチン火山の実習

### (2) 防災キャンプ

- 日時 平成24年8月17日（金）13:30 ～ 19日（日）12:30  
 会場 壮瞥町立久保内小学校 TEL 0142-65-2300  
 〒052-0116 北海道有珠郡壮瞥町字南久保内142番地2
- 1日目 緊急避難とライフライン途絶下での避難所設営、運営を体験学習  
 2日目 ジオパーク（フィールド）を活用した体験学習・講演会  
 3日目 防災施設見学・3日間のまとめ

### 【日程概要】

	8時	10	12	14	16	18	20	22		
1日目 8/17 (金)			到着 受付	開 会 式	オリエンテーション・体験活動 防災ヘリ救出訓練見学/ 避難／避難所設営	夕食準備 非常食クッキング にチャレンジ!	体験活動 火おこし 体験	就寝 準備 消灯		
2日目 8/18 (土)	起床 ・ 朝食	体験活動／フィールドワーク 昭和新山・有珠山 壮瞥の火山を学ぼう!		昼 食	体験活動 津波・竜巻を 楽しく学ぼう!	講演 東日本大震災 からの教訓	夕食 エコクッキ ング	入浴 町営 温泉	体験活動VI キッチン火山	消 灯
3日目 8/19 (日)	起床 ・ 朝食	体験活動／ふりかえり 片付け／消防支署見学 ふりかえり・		閉 会 式	※1日目、20:00 までは停電、断水を想定した体験活動を行います。 ※内容は、天候等により変更となる可能性があります。					

## 2 高校生リーダー研修等

1) 第1回目 8月2日(木) 13:00~14:50 於 壮警町地域交流センター山美湖ホール

### 【研修会次第】

1. 主催者挨拶 壮警町教育委員会 田鍋 敏也教育長
2. 高校生リーダー紹介 参加者の紹介(事務局)と自己紹介
3. 高校生リーダーの役割について
  - ① 高校生リーダーの必要性、概要 胆振教育局教育支援課 五十嵐 晋課長
  - ② 防災キャンプのプログラム説明と高校生リーダーの役割について  
壮警町教育委員会生涯学習課 小林 一也課長
4. 講義
  - (1) 「有珠火山との共生」  
講師：壮警町防災会議専門委員 三松三朗先生
  - (1) 「自然災害の恐ろしさと備えについて」  
講師：壮警町防災学識アドバイザー 岡田 弘先生
5. 次回研修会について



防災キャンプの意義と高校生リーダーの役割に関する講話 胆振教育局 五十嵐課長  
東日本大震災における高校生の活躍等を事例にリーダー研修の意義を説明



講義 「有珠火山との共生」 三松三朗 町防災会議専門委員

2) 第2回目 8月9日(木) 13:00~14:50 於 壮瞥町地域交流センター山美湖 2F 研修室

**【研修会次第】**

1. 防災キャンプ参加に当たって 生涯学習課 総務係長 細川貴弘  
防災キャンプの準備確認(心構え、持ち物等)、具体的役割について
2. 体験実習 「美味しいキッチン火山学実験」の実習:  
講師 特定非営利活動法人環境防災機構北海道 主任研究員 菱村里佳
3. 防災キャンプにあたって 生涯学習課 スポーツ振興係長 蛭名雄一
4. その他 防災キャンプの日程確認等、諸注意について



体験実習 有珠山、昭和新山の生成の仕組みと実験について説明 環境防災機構 菱村主任研究員  
この実験を防災キャンプ2日目の夜、実施するための事前実習



「昭和新山をつくろう!」チョコレートマグマで溶岩ドーム実験  
チョコレートのマグマで、地面を押し上げて溶岩ドームをつくる



アイスクリームとハチミツを使った火山泥流実験  
地元産品 大福豆を利用したジオ・アイスを使用

楽しく学び、実験の実習終了後、チョコとアイスは参加者で美味しくいただきました。

『美味しいキッチン火山学実験』

キッチン火山学とは、食材や身近にある道具を使って「ミニ火山」実験を行い、火山活動のメカニズムや火山の魅力について、楽しく、おいしく学ぶプログラムです。

**プログラム① チョコレートマグマで溶岩ドーム実験**

ねばりけの強いチョコレートのマグマで、地面を押し上げて溶岩ドームをつくります！  
ココアパウダーの“山”に下からマグミに見立てたチョコレートを注入します。

**プログラム② アイスクリームとハチミツを使った火山泥流実験**

アイスクリームでできた雪山の火山で噴火が起こるとどうなるか実験します！  
アイスクリームの“山”に泥流に見立てたハチミツを垂らします。

【レシピ】※10グループ分

品名	数量	単位	備考
ココアパウダー	300	g	
チョコレート	5	枚	市販の板チョコ
生クリーム	400	cc	
水あめ	150	cc	
カップアイス	参加人数	個	
ハチミツ	参加人数×約20cc	cc	

【準備】

品名	品名	品名
紙皿	注射器	三脚
キッチンペーパー	アクリル板	温度計
ティッシュペーパー	ボウル (大)	茶こし
台ふきん	ボウル (小)	電子量り
電気湯沸かしポット	ゴムベラ	セロハンテープ
バケツ	スプーン	

3) 町職員 (スタッフ) 研修

平成24年7月27日 (金) 16:00~17:20 於 壮瞥町地域交流センター山美湖 2F 研修室

【研修会 (兼打合せ) 次第】

1. 講話 「2000年有珠山噴火からの教訓と有珠山の基礎知識」 教育長 田鍋敏也
2. 防災キャンプ実施要項と運営管理スタッフの役割 生涯学習課長 小林一也



火山と共生してきた壮瞥町のあゆみ と 危機管理について研修  
運営管理スタッフ (若手町職員) 15名が参加



### 3 防災キャンプ

#### 1) 1日目 8月17日(金)

プログラム	受付	【玄 関】
内 容	参加者・スタッフ受付	
8:45	会場設営、最終準備確認	開会式会場設営、音響チェック
12:30	受付開始	資料・ヘルメット配布、会場へ案内
12:45	参加者の健康チェック (保健師)	



運営管理スタッフによる受付の様子



避難所を想定した町保健師による参加者の健康チェック



キャンプのメイン会場、久保内小学校体育館で班ごとに集合した参加者

## 開会式

13:30

開会（壮瞥町教育委員会 生涯学習課長 小林一也）  
震災等犠牲者へ黙祷

主催者挨拶 教育長 田鍋敏也



昨年3月11日に発生した東日本大震災は、私たち人間が、生きている星、地球の一部であること、そして、災害に対する正しい知識をもって、判断し、行動すれば、多くの人が命を落とさずに済むのだ、ということ、教えてくれました。

壮瞥町には、周期的に噴火を繰り返す有珠山があります。

今回の防災キャンプは、火山や自然災害について理解してもらうこと、そして、避難生活の体験を通して、災害が起こったときに、自らの確に判断、行動する力を身につけてもらうことを目的としております。

3日間、ともに過ごす仲間と、チームワークをもって、たくさん、学習してください。

また、高校生リーダーの皆さんは、2回の研修で、学習した成果を、この場で生かし、さらに防災への認識を深めてください。

今回の事業が、災害に強い地域、人づくりを推進し、我が国の「安全文化の構築」に向け、多くの成果を得ること、そして、防災教育の推進が全国的に図られることを期待しております。

来賓挨拶 北海道教育庁 学校教育局 次長 秋山雅行 様



壮瞥町防災キャンプが壮瞥町内の多くの小中高校生のご参加のもと開催されますことにお礼申し上げます。このキャンプは将来皆さんが防災活動のリーダーとして地域の様々な世代の方々と協力して活動することを期待して実施し、今年度道内2箇所ですべて初めて開催されます。

3日間グループに分かれて参加体験型のメニューを体験することにより社会参加について考え、実際の災害時にどのような心構えが必要なのか、着の身着のまま避難してきた被災者にどのような配慮が必要なのか実際に体験し皆さんで考えてほしいと思います。

東日本大震災から1年半がたとうとしています。被災地では復興に向け1歩1歩進んでいるところであります。震災では皆さんと同じ小中高校生が地震や津波で家や家族を失いながらも避難所で物資の運搬、食事の準備、施設の清掃など進んでいることが報道されていました。震災という苦難を乗り越え、よりよい社会にするために大人も子どもも前向きな行動が必要であります。このキャンプでは、小中高校生と年齢の異なる皆さんが食事や行動を共にすることになりますが、みなさんの知恵を結集し防災に関する様々な提案をしてほしいと思います。

## 開会式

### 来賓／講師紹介



北海道教育庁学校教育局次長 秋山雅行様  
〃 参事 新納隆司様  
〃 胆振教育局 局長 寺脇文康様  
日本ボーイスカウト岩手連盟 理事長  
元釜石市消防防災課 課長 末永正志様  
北海道教育大学 准教授 今 尚之様

### 実行委員紹介

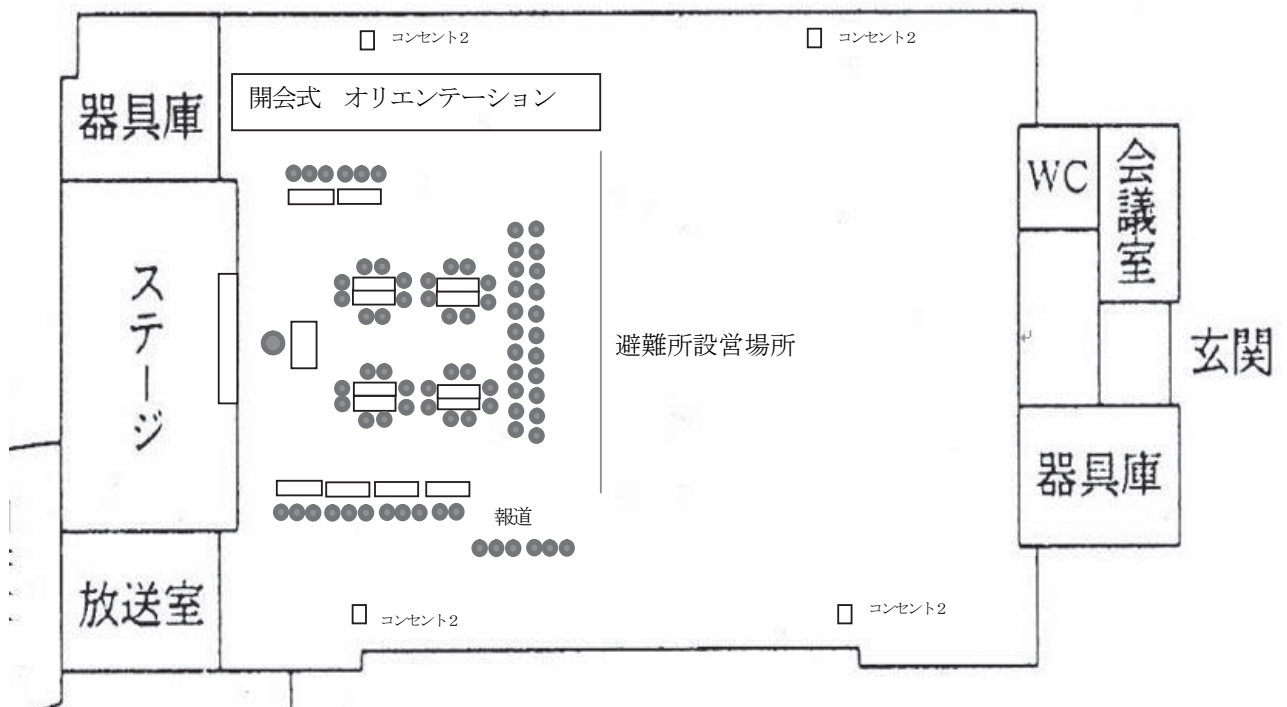


町防災学識アドバイザー	岡田 弘	町防災会議専門委員	三松三朗
洞爺湖有珠火山マイスター	松本ありさ	室蘭地方気象台防災業務課長	櫻井 敬
胆振教育局教育支援課長	五十嵐晋	西胆振消防組合壮警支署長	藤川修一
壮瞥町立久保内小学校校長	竹本啓二	壮瞥小学校校長	柿崎幸恵
壮瞥中学校校長	新沼 潔	久保内中学校校長	高島康範
壮瞥高等学校校長	谷坂常年	壮瞥町総務課長	工藤正彦

### 閉会

会場レイアウト 久保内小学校体育館

2012.0817



# 体験活動 I 北海道防災ヘリ「はまなす2号」救助訓練と機体見学

## 目的・ねらい

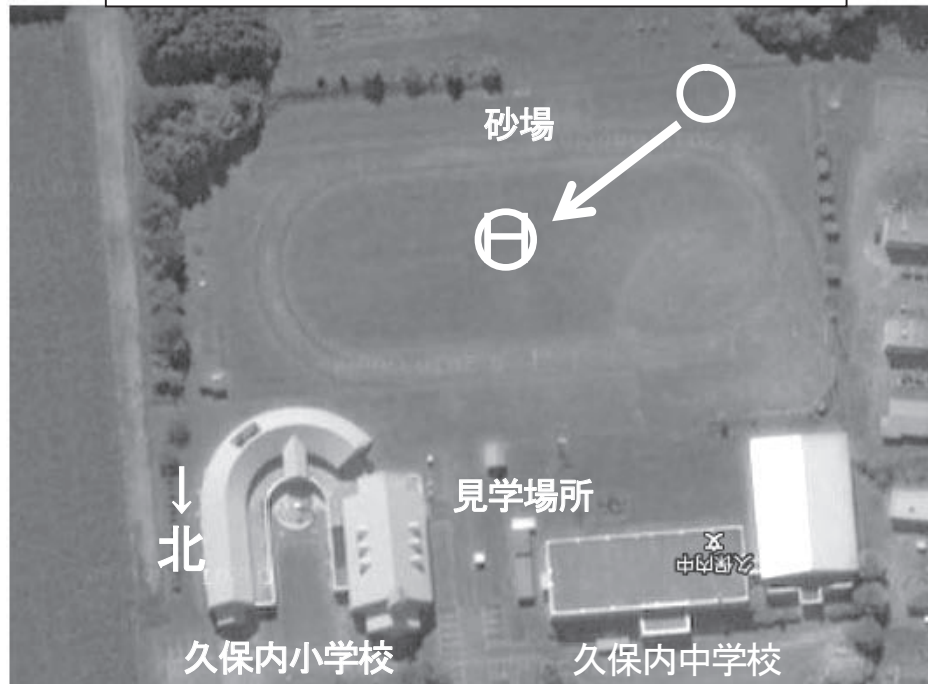
災害時における防災ヘリの活動を学習する。

※12:30 天候不順により中止の連絡が入り雨天メニューに変更

(当初、予定していた活動内容)

- 14:00 ヘリ離陸 (リペリング降下、要救助者2名を吊り上げ)
- 14:05 ヘリ着陸 (エンジンカット)
- 14:25 機体展示 (見学)
- 15:00 ヘリ離陸

○印地点の要救助者を救出し、ヘリで㊦へ搬送



※当日は「雨天時メニュー」に変更し実施

- 14:00 防災ヘリの活動紹介DVD鑑賞と解説

講師： 北海道危機対策課 主幹 高見芳彦氏



## 体験活動Ⅱ 災害時の避難と避難所での生活を考える

### 目的・ねらい

有珠山噴火や東日本大震災時の避難所生活について学習する。

15:00  
～  
16:30

○避難所の設営前に自然災害や避難生活について三人の先生から講話をいただき学習しました。

- ・東日本大震災と避難所生活 指導助言者：末永正志氏  
大震災の発生時、350人と3日間の避難生活の体験を通して、日頃の備え、緊急時の行動、避難所の生活や心構えについて学びました。  
※末永先生には翌日も講演をいただいております。27～30ページに掲載
- ・有珠山噴火災害について 講師：岡田弘先生  
有珠山の噴火の特徴と自然災害に備えるための知識を学びました。
- ・災害の発生と避難について 指導助言者：三松三朗先生  
有珠山噴火時の避難生活の実体験をもとにしたお話しをいただきました。

元釜石市消防防災課長の末永正志さんから、「被災と避難生活の体験」のお話 2012.0817



2012.0817 H. Okada



副実行委員長で、昭和南山記念館館長の三松三朗さんから、「災害の発生と避難」のお話

実行委員長で、廿警町防災学識アドバイザーの岡田弘、北大名誉教授から、「有珠山の噴火と災害」のお話



2012.0817 H. Okada



2012.0817 T. Hirota



3先生の話のあと、避難所設営体験に入る前に、久保内小学校竹本啓二校長より、講評をいただきました。

## 体験活動Ⅱ 避難所設営と避難生活体験

### 目的・ねらい

ライフライン（電気、水）途絶下を想定した避難生活を体験する。

16:45  
～  
17:45

- ・避難所備品（畳 50 枚、毛布 100 枚、段ボール、ペットボトル 200L）搬入
- ・避難所でのルール、役割分担、生活の仕方など確認

#### 『避難所生活の一般的なルール』

突然、不自由な生活をしなければならなくなるのが避難所生活です。

不自由な生活を少しでも快適にするには、

- ・お年寄りや身体の弱い人などを優先させる。
- ・共用スペースはみんなのもの。
- ・趣味などを見つけて気分転換する。
- ・軽い運動などをしてリフレッシュする。
- ・感謝の気持ちをわすれない。

#### 『防災キャンプ避難所設営の手順』

- ①全員で備蓄倉庫に移動します。
- ②備蓄倉庫から必要な備品をトラックに積み込みます。
- ③トラックに積んだ荷物を学校でおろします。
- ④グループごとに決められた場所へ設置します。

#### 『防災キャンプ避難所の備品』

- ①毛布 ②たたみ ③段ボール ④ペットボトルの水 ⑤その他

#### 『防災キャンプ生活の注意事項』

- ①他人に迷惑をかけない。
- ②ゴミの分別に気をつける。
- ③みんなで協力する。



防災備蓄倉庫から備品類の運び出し。高校生が率先しリーダーを務める。



役割分担し効率よく運び出し。

いよいよ  
避難所設営です



2012.0817

近くの防災備蓄倉庫まで  
行って、たたみ、毛布、  
間仕切りなどを運び込み  
ました

2012.0817 T. Hirota



2012.0817 H. Okada



2012.0817 T. Hirota



2012.0817 T. Hirota

いよいよ避難所設営です

2012.0817



2012.0817 H. Okada

二日間の避難所生活で、快適な生活・睡眠空間を班ごとでどう実現しようか？



2012.0817 T. Hirota



2012.0817 T. Hirota



2012.0817 H. Okada



# 体験活動Ⅲ 非常食と火の大切さの学習

目的・ねらい

水、電気、調理器具が無い状態を想定した食事の体験

18:00  
～  
19:00

## 1 非常食の解説と火の大切さについての解説とツナ缶ろうそく実験



非常食 (写真)  
乾パン(100g 1缶)  
ツナ缶 80g1缶  
リッツ 25枚入  
お茶

### 【非常時の食料】

大きな災害時には、すぐに救援物資が来るとはかぎらず、2、3日は自分の力で生きのびることを考えておかなければなりません。

“カップ焼きそば”はライフラインがとまった時に食べるのには適していません…万一の場合は、水もお湯もない状況です。何とか苦勞して水をあつめお湯を沸かせたとしても、カップ焼きそばは貴重なお湯を捨てなければなりません。カップラーメンもレトルト食品も基本的にはお湯がなければ役に立ちませんが、レトルト食品は温めるのに使ったお湯をほかのことに使う事ができます。非常時には水やお湯がなくても食べられ、ある程度保存がきくクラッカーやビスケットなどがよいということです。



夕食前に、あかりをともしよう

2012.0817



2012.0817 T. Hirota

2012.0817 T. Hirota

それぞれの班のテーブルに、あかりがとまりました



2012.0817 T. Hirota

2012.0817 T. Hirota

## 体験活動Ⅲ 火の大切さの学習

### 目的・ねらい

ライフライン途絶下を想定した火おこし、キャンプファイヤーで火の大切さ、育て方を学ぶ。

19:00  
～  
20:00

#### 『火起こしのコツ』

用意する物は、うちわ、新聞紙数枚、落ち葉や木屑、あれば乾燥したマツボックリ、細い枝と中くらいの枝適量、薪などです。新聞紙を薪と同じくらいの長さの棒状にして軽く雑巾絞りをするように絞っておいてください（3～4本くらい）。

もう一枚の新聞紙をくしゃくしゃにして火床にした薪の上に置き、新聞紙や着火剤の上にフィールドで集めてきた落ち葉や木屑などをパラパラと置きます。その上にまたフィールドで集めてきた細い枝、中くらいの枝をのせその上に先ほど作っておいた棒状の新聞紙をのせます（棒状の新聞紙は着火すると結構火持ちがいいです）。

その周りに円錐状に細くて燃えやすそうな薪を空気の入りを塞がないくらいに並べていきます。

いよいよ着火です。火がまわってきたら徐々に太い薪などをいれていきましょう。

何回もやっていれば風向きとかを考えて空気を入れやすくするコツなど自然にわかってくると思います（無風の時はうちわを使ってみてください）。

#### 『注意事項』

- 風が強いときは焚き火は控えましょう。
- キャンプ場が混んでいるときは周りのサイトに火の粉が飛ばないように。  
（タープやテントは火に弱いのですぐ穴開いてしまいます。）
- キャンプ場では直火禁止のところもかなりありますので事前に調べましょう。
- 後始末は必ずしっかりしましょう。火が消えたと思っても火床は消えていません。水でしっかりと消火しましょう。



## 1 日目のふりかえり / 就寝準備 就寝

### 目的・ねらい

1 日目活動のふりかえりを各グループで行う。

リーダーへ翌日の連絡 (教委職員勤務終了 当直担当職員到着)

20:00

1 日目の振り返り

○噴火災害の怖さを知ることができた。東日本大震災のテレビでは出ていなかったことや知らないことを教えてくれて甘く見てはいけないと感じた。

22:00

○避難所設営が難しかった。

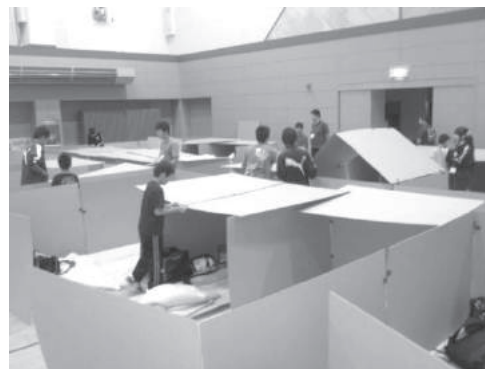
○キャンプファイヤーで将来使えそうな技術や知識を学ぶ事が出来た。

○キャンプファイヤーで火を育てることを教えてもらった。

○グループで行動したが、一人一人が自分の役割をこなしていた。



それぞれのグループで体験を振り返り



避難スペースで就寝の準備 一日目は、寝付けなかったようです。

## 2) 2日目 8月18日(土)

### 避難所での生活

6:00 起床・朝の散歩・朝食      7:30 町保健師による参加者の健康チェック  
8:00 久保内小学校出発

### 体験活動Ⅳ 変動する大地との共生

#### 目的・ねらい

フィールドワークで壮瞥の火山を学ぶ【昭和新山/有珠山】

8:30	オリエンテーション(自然公園財団前駐車場)
↳	・登山・フィールド活動に関する注意事項を説明
8:45	昭和新山登山(亀岩まで)
9:45	亀岩着・休憩(副食) 全体、グループで写真撮影
11:00	下山完了 有珠山ロープウェイへ徒歩移動
11:15	有珠山ロープウェイ乗車
11:25	有珠山(洞爺湖)山頂展望台
↳	大地の変動、火山と共生してきた歴史を勉強
12:00	ロープウェイで下山
12:15	バス乗車 久保内小学校へ移動

#### 岡田 弘(おかだ ひろむ)氏



北海道大学名誉教授 壮瞥町防災学識アドバイザー

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問

NPO 法人環境防災研究機構北海道副代表理事

1943年長野県出身。北海道大学大学院修士課程修了、地震学専攻。

1977年有珠山噴火に立ち会ったのがきっかけで、専門を火山学に変更、同大有珠火山観測所に勤務し、噴火予知研究と減災基礎研究に21年間専念されています。十勝岳・駒ヶ岳・雌阿寒岳や内外の噴火で学び、2000年有珠山噴火では的確な直前予知と減災支援を行いました。現在壮瞥町の防災アドバイザーとして色々な面でサポートしていただいています

#### 三松 三朗(みまつ さぶろう)氏



三松正夫記念館館長 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会学識顧問

1937年大阪府出身。帯広畜産大学獣医学部卒

大学生時代から三松正夫氏と親交を深めて、その二代目として火山一筋の人生を歩みます。1989年、正夫氏の残した膨大な火山誕生の観測資料を活かすため、昭和新山のふもとに三松正夫記念館を開設し、現在は館長としてご活躍されています。火山の防災教育をライフワークとして活動し、2007年防災功労者防災担当大臣表彰受賞。著書に「火山一代～昭和新山と三松正夫」などがあります。

フィールドワーク：昭和新山登山計画書（兼危機管理計画書）



体験活動の実施における危機管理計画

配慮すべき事項 珊瑚岩から左肩にかけての落石、ドームトラバース地点での滑落、やけどなど。  
次頁の注意事項のとおり。

- 危機管理
- ・実施前の天候を充分考慮し、ドーム（地盤）の安全性を実行委員会で判断する。
  - ・参加者には事前に登山の注意事項等、遵守すべき事項を十分周知、徹底する。
  - ・グループごとに行動し、登山経験の豊富な火山マイスター、職員を配置し、安全を確保する。
  - ・緊急事態が発生した場合は、47頁に掲載した緊急連絡先と連携し対処する。

統括責任者 壮瞥町教育委員会生涯学習課 課長 小林一也 携帯 080-\*\*\*\*-\*\*\*\*

……火山に登る時の注意事項……

【一般的注意事項】

- 1 火山はその生成過程から分かるように、大小の積み木を盛り上げたような極めてろい山体構造になっています。地滑り・落石・転石、雨天時の土石流に注意しましょう。
- 2 高熱地帯・火山ガス噴出区域があります。近づかないようにしましょう。  
“火山ガス”には悪臭を放つ危険な有毒ガス（亜硫酸ガスや硫化水素）ばかりでなく、無臭の致死ガス（フッ化水素）もあります。また無毒なガスですが、比重が重いために、くぼ地にたまり、酸欠の原因となる二酸化炭素ガスもあります。  
  
無風・曇天の気象条件、くぼ地・沢筋ではガス濃度が高くなりやすく要注意です。  
呼吸器疾患や循環器疾患の人・妊婦は低濃度ガスでも影響を受けやすく注意！
- 3 火山によっては予報・警報なく突発的な小噴火をすることがあります。駒ヶ岳・樽前山・雌阿寒岳では、有珠山のような明確な前兆があると思わないでください。
- 4 多くの火山では、事故防止のために入山規制や注意・警告が出されています。遵守しましょう。

【壮瞥町子ども郷土史講座資料より】

【昭和新山登山での注意事項】

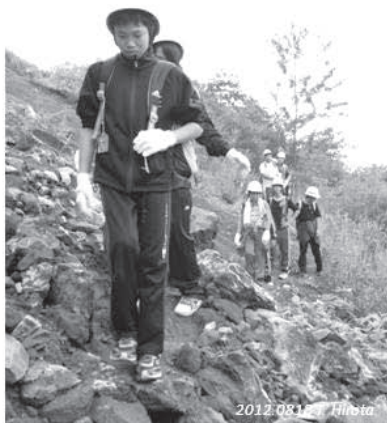
- 1 昭和新山は自然公園法に定める国立公園特別保護区、文化財保護法に定める特別天然記念物に指定されており、入山・原状変更は厳しく規制されています。岩石・動植物の採取は止めましょう。全てのゴミは各自持ち帰りましょう。
  - 2 火山を学習するために特別に入山します。大勢の人が入山する事によるダメージを最小限に止めるよう注意しましょう。
- イ 足下の動植物に注意しながら、縦一列で歩きましょう。
- ロ 一般観光客が注視しています。目的を持ったグループを印象づけるため、ヘルメットを着用、秩序ある行動をしましょう。
- ハ 万が一落石があった場合は大きな声で「落石ッ！」と廻りの人に注意を呼びかけましょう。落石が加速する前に可能であれば止める努力をしてください。が、危険な状況では、落石を注視し、直前で身を交わしましょう。
- ニ 石や踏み固めた路盤に微少な砂が載っているため滑りやすい状況です。斜面では身体を垂直に立ち、靴底の全てを地面に付けるようにして歩きましょう。腰を引いての歩行は滑落し易い歩き方です。
- ホ 不安定な石もあります。滑落・落石を防ぐため、景観を楽しむと同時に、先行者の足下を注視して、足場の確認をしながら進みましょう。
- ヘ 昭和新山では致命的火山ガスの噴出の心配はありません。が、昼食予定場所の亀岩周辺は高熱地域であり、軽微なガス臭があり、風下ではむせる事もあります。行動には充分注意してください。
- ト ドーム頂一帯は、2000年噴火時に出来た亀裂が潜在していて不安定な状況です。指定した範囲から踏み出さないでください。山麓苑地から見ると想像以上に人影が大きく見えます。一般観光客の注目を引かないように自重下さい。
- チ 無理をせず、体調不調は早めに申告して下さい。

## 二日目 昭和新山の登山学習会

2012.0818



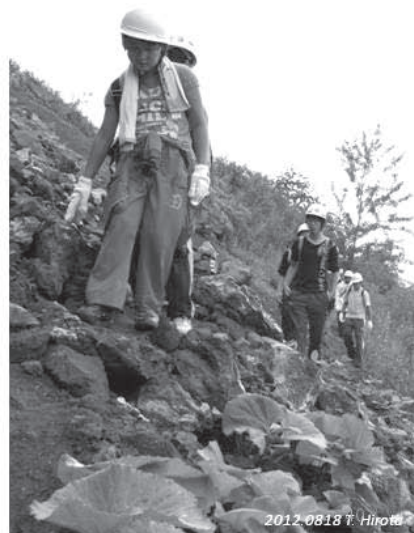
2012.0818 H. Okada



2012.0818 T. Hirota



2012.0818 T. Hirota



2012.0818 T. Hirota

## 昭和新山の登山学習会

2012.0818



2012.0818 T. Hirota



2012.0818 T. Hirota



2012.0818 T. Hirota

昭和新山の亀岩の地熱であたためた  
ゆでたまごは、美味しかったね



2012.0818 T. Hirota



2012.0818 H. Okada



昭和新山 亀岩 付近で参加者による記念撮影。バックは壮瞥町の中心部「滝之町」



防災キャンプを事業化した 文部科学省スポーツ・青少年局青少年課長 勝山浩司様他 及び 北海道教育庁からは、総務政策局長 杉本昭則様が状況視察で来訪。無事昭和新山を下山した参加者に勝山様(右から6人目)からメッセージを頂戴した場面



文部科学省の皆様は、その後、久保内小学校での活動と壮瞥町立香地区の北海道大学有珠火山観測所(左)等を視察されました。

有珠山ロープウェイで有珠山の東外輪山へ



「動く大地」について学ぶ参加者(有珠山ロープウェイ山頂駅)

各グループで昭和山と壮瞥町滝之町をバックに記念撮影  
有珠山ロープウェイ・洞爺湖展望台



2012.0818

2012.0818 T. Hirota



2012.0818 T. Hirota



2012.0818

2012.0818 T. Hirota



2012.0818 T. Hirota

グループメンバーと 岡田弘・三松三朗 正副実行委員長 (左上からA、B、C、Dの順)



# 体験活動Ⅴ 気象実験

目的・ねらい

気象実験を通じて、津波や竜巻などの自然災害発生メカニズムを学ぶ。

13:30  
～  
14:50

室蘭地方気象台による科学実験講座

2012.0818



空気の重さと気圧の実験です



2012.0818

室蘭地方気象台による科学実験講座




地震や津波の実験



## 講演 I 東日本大震災からの教訓

### 生きる力を育むー自然災害に備えて

目的・ねらい 釜石の奇跡はどのような取組から生まれたかを学習する。	
15:00 ～ 16:00	講師 日本ボーイスカウト岩手連盟 理事長 元岩手県釜石市消防防災課長 <b>末永正志</b> 氏  岩手県釜石市生まれ。釜石市職員として消防防災課長など歴任 日赤救急法指導員やボーイスカウト指導者として活躍 近年は釜石市の教育委員会と連携して防災教育を強力に推進 平成 20 年度から文部科学省が推進する防災教育支援事業を全国の自治体で初めて導入し、防災教育カリキュラムと教材を開発

#### 講演概要

私も被災者のひとり。自宅も車も流されたが、家族は無事だったのが救いである。私自身、平成 18 年から消防防災課長をつとめていた。その 3 年間で経験しなかったのは津波だけ。私はボーイスカウトの活動を通して、備えと訓練がなければなにもできないこと、危機管理につながる訓練の大切さを感じた。ボーイスカウトの活動の下地、考え方があったため、平成 20 年度に文部科学省の防災支援事業の採択を受け実施した。それがよかった。

釜石市は平成 23 年 3 月末で人口約 4 万人、防災教育の推進は市議会でも市長が答弁、表明している。震災当時、釜石には約 3,000 人の児童生徒がいたが、学校管理下になかった 5 名を除き、全員が生き延びた。

この取組がなければ 3 月 11 日は釜石の悪夢になっていた。800～1,000 人の児童生徒が亡くなっていてもおかしくない震災だった。

(地域防災支援事業で作成したビデオを紹介)

災害では、日常が非日常へと変わる。朝起きてご飯を食べて普通に学校や会社に行く。この当たり前の生活が出来ない非日常。非日常では自分の生活を守るため、生き抜くために衣食住を確保しなければならない。

自然は想像を超えて厳しいもので、災害は繰り返し、地震津波は必ず来る。しかし、人間は厳しい環境におかれれば置かれるほど知恵を働かせる。なんとかしようという気になる。ピンチがチャンスである。

あれだけの被害を受けた漁民は「海を恨んでいないと言った。海を糧に生活をしている。その海をうらんでいてはこれから生活できない」。我々にはなかなか理解出来ないが、海を糧としている人が、船も家も人も流された海をそれでも恨まない。とても考えさせられる。

震災は大変な困難をもたらした。釜石の隣町、大槌町は町長はじめ幹部職員が、陸前高田市では市職員 40 名近くが死亡。リーダーを失い、1 週間くらい指示を出す人がいないといった行政、学校に様々な課題を残した。震災を経験し、地域と学校の連携、子どもたちの教育の在り方が問われていると思う。

岩手県沿岸は鋸の歯のように入りこんでいる。津波の高さが高くなる。一報は三陸沿岸に 3m の津波。高さは湾によっても違う。速く逃げるのが大切である。統計によって違うが、釜石の死者、行方不明者を合わせると 1,040 人ほど。大槌やその隣は、人口が少ないのに 1,340 人と大きな数字である。

これは田老町の 10m の防潮堤。乗り越えたその波は引かなく溺死が多い。30 年かけて作ったものだが、あっという間になくなった。これは遺体の映像だが、日本ではメディアが自主規制を行い、このような映像

は放映されない。海外のメディアは流しているが、悲惨な写真なしでは、真実は伝わらないと思う。

釜石小学校の児童 184 人は全て助かった。教育をして訓練をしていたため、一人一人が自分の判断で行動して助かった。教育の成果と言える。産経新聞 4 月 13 日付に「釜石の奇跡」と掲載された。偶発的な意味合いに感じられ、いかななものか。そうではなく、継続的、意図的な訓練の賜物、結果である。

次に、これは一番被害が多かった鵜住居地区の状況である。

(ビデオ上映)

今見てもらったのは、上のこのあたりからの映像である。一瞬で海になって全て無くなっている。

釜石東中学校と鵜住居小学校の取組を紹介する。

この2校はハザードマップの外で、想定外である。亡くなった人も想定外の地域が多い。鵜住居小学校は3階建だが津波は屋上を越えた。道路を隔てて中学校と向かい合っているので、常に、小中連携で、中学生が小学生の手をひいて逃げる訓練をしていた。常に避難した時間を計る。

第一次避難場所は、市が定めたところではなく、距離はあるが、標高差が 2 m しかない。二次避難先は 1.2 km のところまで逃げている。子どもたちの判断で逃げている。

中学生は課外事業で、サッカー部がまず走って逃げ出した。一番先に逃げる人は勇気がいる。

それを見ていた小学校の先生が、いったん3階に逃げたが、地元の消防団が「大津波がくる」と情報提供、説明していたこともあり、中学生の逃げているのをみて、いっしょに逃げている。これがそのときの映像で、赤い帽子をかぶっているのが小学生。大きいのは中学生。保育所の子どもを中学生が抱きかかえて逃げている。自主的な判断で逃げている。教育の成果である。

鵜住居小学校の3階には軽自動車突き刺さっている。避難していなければ、大変な惨事になっていた。鵜住居地区の防災センターがあった。地域の人たちは、避難所でなかったが、勘違いしてここに避難し、64 名がそこで亡くなっている。大人ほど難しいものがない。説明したらわかったふりをする。子どもは違う。素直だから。理解したら必ず避難してくれる。

釜石小学校では、子どもたちが大人に、危ないから逃げようといった。学校の防災授業の成果である。学校の先生の粘り強く、忙しい中、2 年間にわたる取組の成果である。WG を年 10 回やっている。学校は忙しいため、時数を割くのは難しく、防災教育の時間は、一番多くても 10 時間程度。このことから、普通の教科の授業で、防災・津波を取り組むようにしている。朗読の時間は稲むらの火を、算数でも計算に津波の早さ等を入れるなど、先生は、見事にやってくれた。

これは、死亡した人をマップにしたもの。高齢者が多い。鵜住居地区の防災センターはここ。釜石の奇跡といわれるが、大人が多数亡くなっている現実がある。

何が生死を分けるか。群馬大学片田先生の話であるが、脅しの教育、知識だけでもだめ。防災に対して主体的に学習する、積極的に判断する。これは一人一人がそうすれば、まずは、避難の行動に結びつく。

<防災教育>

釜石の教員は、75%が内陸から来ている。津波を知らない。釜石小学校の校長先生も盛岡出身。

平成 20 年の校長会で、教育長が「防災教育支援事業を学校教育現場で取り組もう」と言った。その一言がなかったら、今、どうなっていたか。文部科学省の補助事業をやることはインパクトがあった。教育長、学校長、熱心な先生がいた。そのどれが欠けても子どもの教育に結びつかなかったと思う。

事業を始めた当初は、知識がない、教材がない中で、理解が得られない。このような中で、カリキュラムを作った。釜石小学校の特徴として、秋の授業参観のあと保護者の防災講演会を行い、最後の仕上げで、市が緊急地震速報を流し、親子避難訓練を実施した。共通理解と相互信頼ができた。

「津波てんでんこ」の考え方を入れ、まず、子どもたちは「私たちは間違いなく逃げるので心配しないでください」という。お母さんたちは心配であるが探しません。多くの方が探しに行って亡くなっている。このような家族の共通理解がなければ成り立たない。地震・津波があれば、どういう経路で逃げるか相互に理解していなければお互いに探す。学校は高台で、安全であるということが浸透できたのは教育の結果である。

防災教育支援事業の内容であるが、防火意識、救急処置、応急処置、搬送、防災マップづくり、非常時の炊き出し、防災ずきんづくり等を3年間のメニューで実施した。

これは先生ではなく、生徒会が自主的に活動した。

極めつけは、「助けられる人から助ける人へ」という中学生が自ら「防災意識啓発ビデオ」を作成したことである。

毎日新聞と兵庫県が主催する、ぼうさい甲子園で釜石東中学校は2年連続、防災大賞を取っている。

左の男の子は「釜石の奇跡といわれるが、普通に、今まで勉強してきた訓練を、自分たちにとって当たり前前を当たり前にしただけ」と言っている。女の子は「奇跡は起こったものではなく、普段の通り行っただけ何も特別なことはない」と話している。

この「当たり前前を当たり前にすること」がすごいことである。

これは、死亡者の年齢構成である。宮城県に比して岩手県の児童生徒と高齢者の死亡は少ない。おそらく、防災教育の成果だと思う。宮城県でも宮城県沖地震の啓発に力を入れてきたが結果は異なった。平野部の宮城県、リアス式の岩手県と地形が違うため被害も異なった。

釜石における避難三原則は、「想定にとらわれるな、最善を尽くせ、率先避難者たれ」である。

3月11日当日の体験談になるが、運転免許センターにいたときに突然大きな地震に見舞われ、3日間の避難所生活を余儀なくされ、いろいろなことを行った。免許受験者及び更新者63人を引き連れて国道45号線を横切り高台にある指定避難所釜石市民交流センターへ避難した。備蓄品も無く、夜は氷点下4度の厳しくつらい生活を3日体験。私を含めた免許センターの講師3人の前歴は、消防長、防災課長、警察官であり、サバイバルには最適の人材でしたが避難者350人の命を守る、つなぐと言うことは並大抵ではなかった。水、燃料、食料の調達が大変。

山を越えて、食料調達は、避難所から1.5km離れたスーパーにいった。そこで、私が災害対策本部に連絡をしたと話して食料を調達した。教育長が同じことを考えていた。350人の食料を10数人が持ち帰った。

食べ物は大事である。携帯も何も使えない。お年寄りはお薬手帳も大事。

キャンプスキルと防災知識が役に立った。避難者350人に必要な物資獲得作戦を敢行した。組織結成への声かけと了解取り付けが大切である。避難所では、次のことが必要となる。

- ①組織：運営組織の設置と業務分担
- ②食の確保：食料・水・燃料等の手配
- ③通信手段の確保：消防無線の活用
- ④医療の確保：救急車・看護師の活用

電気も電話も途絶えていたが、一つ山を越えたJR釜石駅西側のスーパーに10数人が覚悟を決めて三陸鉄道の高架橋をつたって食料を取りに行った。

元消防長は津波が引いた後、10人の若い避難者を連れて懐中電灯1本とトラロープ1本で住宅の2階からおばあさんを救出。再度元消防長と5人の若者が市営アパートの2階からお婆さんを救出。災害の際には、「見る、聞く、感じる」を大切に、正しい情報を入手して、正しい判断をいかにするか。

生きる力で大切なのは、まず、朝は元気に挨拶をすること。時間を守る。特別なことではない。当たり前のことを当たり前に行うことが大切。それは朝の挨拶から、時間を守る。

最後、まとめとして、津波対策をしていない人は残念ながら亡くなった。対策をしている人は助かった。ボーイスカウトのこの上級訓練をしたこのバッチは、いつでも奉仕する用意がある、という意味です。皆さんも自分だけのためだけでなく、人のためにもできるようにしてもらいたい。

以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

### 【高島校長先生の振り返り挨拶】

防災に関する話であったが、私たちの生き方そのものに対する教をいただいた。児童生徒が自分の判断で避難し、まわりの大人たちの命を救ったということに感動した。当たり前のことを当たり前。「津波でんでんこ」についても家族の共通理解がないと成り立たない。学校、地域、行政の共通理解がないと、目標が達成できないと感じた。参加者もたくさんを感じたと思う。講演、ありがとうございました。実際の体験を通しての話、心構え、写真などいろいろなことを教えていただいた末永様に感謝を申し上げます。



#### 家族会議で話し合おう

家族会議で共通理解と絆を強固に

☆非常時の役割分担 ☆非常持ち出し品の準備

水・食料・燃料・ラジオ等の準備と点検

☆危険箇所等のチェック

☆避難路・避難場所の確認

防災マップ・ハザードマップ

☆災害時の連絡方法

災害用伝言ダイヤルの活用

#### 地域との絆 共助への参加

～生きる力を育む為に～

- ・日頃からの地域内交流（向こう3軒両隣）
- ・自主防災組織への参加促進（地域状況の把握）
- ・防災対策のチェック（地域内での点検活動）
- ・防災訓練への参加、キャンプスキルの習得

#### まとめ

「そなえよつねに」は、物を備えるだけではなく知識・技術・心構えを養う事である。自分だけでなく、他の人々に対しても実践出来ること。

- ・家族会議で共通理解（行動が絆を強化）
- ・地域コミュニティの醸成（共助と絆）
- ・災害文化の伝承、防災教育の推進
- ・訓練と検証の継続（継続は力、資質の向上）
- ・体験から学ぶ→自助・共助の強化

#### 「こあんしき」

居安思危：安きに居りて危うきを思う

思則有備：思えば則ち備えあり

有備無患：備え有れば患い無し

## 講演のふりかえり

### 目的・ねらい

釜石の奇跡はどのような取組から生まれたか、普段どのような取組が必要かなどグループで話し合う。

16:00

く

16:30

#### 各グループで話し合われた主な内容

- 釜石の中学生が自分の判断で逃げたことがすごいと感じた。
- 正しい情報と判断と行動が命を守る。
- 防波堤が津波によって無残な姿になっていたのが印象的
- 災害は必ずやってくる。
- 行動へと導く教育が必要
- 衣食住の他に医療、情報も必要
- 地域の絆が大切
- 普段から家族会議で話し合う。

末永さんの話がどうだったか、みんなで話し合おう

2012.0818



## 夕食準備／調理

目的・ねらい

各グループリーダーを中心に協力してカレーライスを作る。

17:00  
～  
19:00

食材準備、関係者分夕食調理。グループごとに協力して調理



2012.0818

自分たちで作った夕食は、とってもおいしかった



壮瞥高校よりズッキーニ、トマト及び浜田園から  
プラム等の差し入れがあり、美味しくいただきました。

## 体験活動VI 大地の恵み体験—温泉入浴—【久保内ふれあいセンター】

### 目的・ねらい

温泉入浴を通じて、避難生活における衛生管理の大切さと大地の恵みを知る。

19:10  
く  
20:00

久保内ふれあいセンターへ徒歩移動（約 500m）

温泉入浴（久保内ふれあいセンター）男性 2 班・女性 1 班に分かれて入浴



平成 12 年有珠山噴火時には、避難者に方に無料で利用された町営温泉

### 【久保内ふれあいセンター】

住所 有珠郡壮瞥町字南久保内 151 番地 3

営業時間 10:00～20:30 毎週水曜日休館

料金 大人 390 円 小人 140 円、幼児 70 円

泉質 塩化物、硫酸塩泉

効能 神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、  
運動麻痺等

お問い合わせ 壮瞥町総合サービス TEL 0142-66-2201





## 体験活動Ⅶ キッチン火山学

### 目的・ねらい

身近な食材を使って、おいしく噴火災害のメカニズムを学ぶ。

20:00

く

21:30

チョコレートなどの食材を使った火山実験で火山噴火のメカニズムを学ぶ。

- 1 「昭和新山をつくろう！」チョコレートマグマで溶岩ドーム実験  
チョコレートのマグマで、地面を押し上げて溶岩ドームをつくる
- 2 アイスクリームとハチミツを使った火山泥流実験地元産品  
大福豆を利用したジオ・アイスを使用



## 就寝準備 就寝

21:30

就寝準備  
リーダーへ明日の連絡  
グループごとに洗面等就寝準備

22:30

就寝

### 3) 3日目 8月19日(日)

#### 避難所での生活 起床・朝食・3日目準備

6:00 起床・朝の散歩・朝食 7:30 町保健師による参加者の健康チェック  
8:00 荷物の整理

#### 避難所撤収作業

##### 目的・ねらい

高校生リーダーを中心として協力して避難所の撤収作業を行う。

8:15 撤収開始  
備蓄倉庫の備品を体育館裏口に運ぶ

8:45 避難所撤去終了  
トラックに荷物積み込み



避難所で使用した備品類を片付け、防災備蓄倉庫へ運び込み

# 体験活動Ⅷ 防災施設見学と地震体験

## 目的・ねらい

町の防災拠点施設を見学し設備等について学ぶ。

9:30

グループごとに行動

消防施設、車両見学、起震車（震度）体験、消火訓練

10:15

バス乗車 久保内小学校へ移動 消防出発



三日目



西胆振消防組合社管支所での防災体験教室

地震体験です



壮警防災キャンプ2012

2012.0819



西胆振消防組合社管支所での防災体験教室



# ふりかえりと全体会

目的・ねらい

防災キャンプで学んだことを個人でふりかえりグループでまとめる

10:30

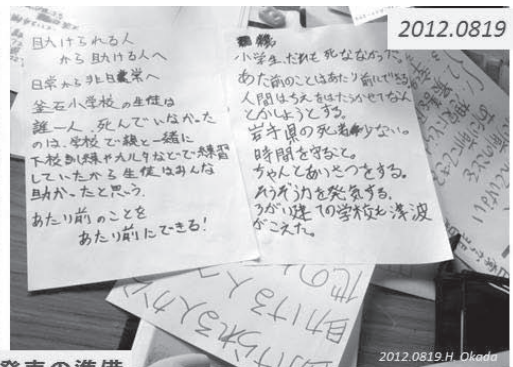
東日本大震災派遣の講話 町商工観光課 三松靖志主幹

- ・避難生活
- ・避難所とは
- ・自助、共助、公助



10:45

個人のふりかえり  
グループごとのふりかえり  
全体共有



ふりかえりと、発表の準備



ふりかえりと発表の準備をするグループ

## ふりかえり

### 【Aグループ】

- ・日々日常からあたりまえのことができる生活を送っていることが、簡単なようで一番むずかしく、とても大切だと感じた。
- ・自分も、自分のまわりの人も自分の命を自分で守るという意識を持つことが大事
- ・生徒会中心で考案の防災訓練メニューを実施すること、久保内中でもできたらいいな。そしてみんなで意識を高めあえたりできるといい
- ・災害時に適切な判断、行動をすること → それには日々の積みかさねが必要。

### 【Bグループ】

- ・自助・共助の強化：誰かを助けるためには、まず自分が助かるための知識・備えが必要。
- ・逃げる勇気を持つこと：自分は大丈夫と思わないこと。
- ・備えをつねに：避難時に何が必要か、どんな行動をするべきなのか、的確な判断を行うために。
- ・厳しい状況でこそ知恵をはたらかせる→ピンチがチャンス
- ・常日頃の防災訓練の大切さ 主体的に、意識して、考えて
- ・末永さんの講演の中で、地域との絆や地域コミュニティを大切にという言葉から避難所生活では他人と生活することになるので、突然では他人と共同生活ができないと思ったので、日頃から絆をふかめておくことは大切だと感じた。

### 【Cグループ】

- ・釜石の奇跡がおきたのは、釜石の防災教育が行動へ導く、教育だった為だと思った。衣食住と医、情を平時に考えて対応しておく事が重要だと学んだ。全てにおいて「そなえあればうれしいな」という言葉がぴったりだと感じた。
- ・釜石の小中学生は自分の判断で逃げて勇気がある。
- ・親族の電話番号を書いたものが必要と思った。
- ・小学生が訓練のように行動して、全員生き残ったのが凄いと思った。
- ・正しい情報と行動が命を守る。(行動へ導く教育が重要)
- ・おどしの教育ではなく、知識だけの教育でもなく、姿勢の教育が大切。

### 【Dグループ】

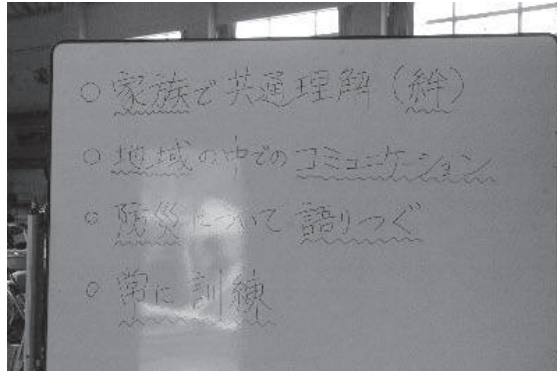
- ・海を恨んでいないという漁民の考えは有珠山の周りに住む私たちでいうと火山をうらんでいないということになると思う。火山があつてこそ私たちの生活がある、だから火山と仲良くしていかなければならないと思う。
- ・想定にとらわれない、最善を尽くす、率先避難者たれ。
- ・主体的な姿勢の防災教育の重要性
- ・助けられる人から助ける人へ。他の人と協力しながら助けあう。自分の命は自分でまもる！釜石小学校の生徒は1人もしんでいなかった。想定にとられるな。当たり前を当たり前前にやる。



グループのまとめを発表する代表者



講評する柿崎壮瞥小学校校長



ふりかえりのキーワード



道教育庁 小田主査

# 閉会式

12:15

## 1 主催者あいさつ 岡田弘実行委員長



昨日は、昭和新山にも登り、お風呂も入り、たっぷり寝たという話を聞きました。3日目の今日もとても元気な顔をしているので嬉しく思います。この3日間、防災キャンプで学校に泊まって色んな体験をしました。特に注目したいのは、子どもから高校生まで世代を超えてグループを作って、お互いに協力し合い自分の特技を発揮していたことはとても素晴らしいことだと思います。

みなさんが集まった初日に比べて一段と大きく成長した様に見えます。きっと家に帰るとお父さんやお母さんもそのことに気がついてくれると思います。

津波とか、噴火とか地球が活動をとめることはできません。そして、人間が居ないところには自然災害は起こりません。人間がいるところに社会を作って、生活しているとどうしてもどこかに弱さが出てそこを狙って災害は起きます。

人間もそのことを知っていて、そのことに備えることが出来るようになってきています。それが釜石です。それが2000年のこの地域の人達の行動です。そして、みなさんはそういう時代に生きています。みなさん一人一人の力を使って、この大好きな壮瞥町、大好きな有珠山、洞爺湖、大好きな北海道、日本をこれから背負って作って行くその中心となって頑張ってくれるものと思っています。

ここまで至るにあたっては、たくさんの人達の助けがありました。この場をお借りしてお礼申し上げます。これからの皆さんの活躍を願って挨拶と致します。

## 2 高校生リーダーあいさつ 壮瞥高等学校 2年 岡島 史弥 君



みなさん2泊3日の防災キャンプお疲れ様でした。この3日間は皆さんにとってどのような3日間になりましたか。僕はみなさんのお陰で思い出に残る3日間を過ごすことができました。防災キャンプを終えることが出来たのは、参加者どうしの団結と実行委員、運営スタッフのみなさん連携があったおかげだと思います。

これからも防災キャンプで学んだことを忘れず、もしもの時にみなさんがリーダーとして自分から行動していけたら良いと思いました。3日間本当にありがとうございました。

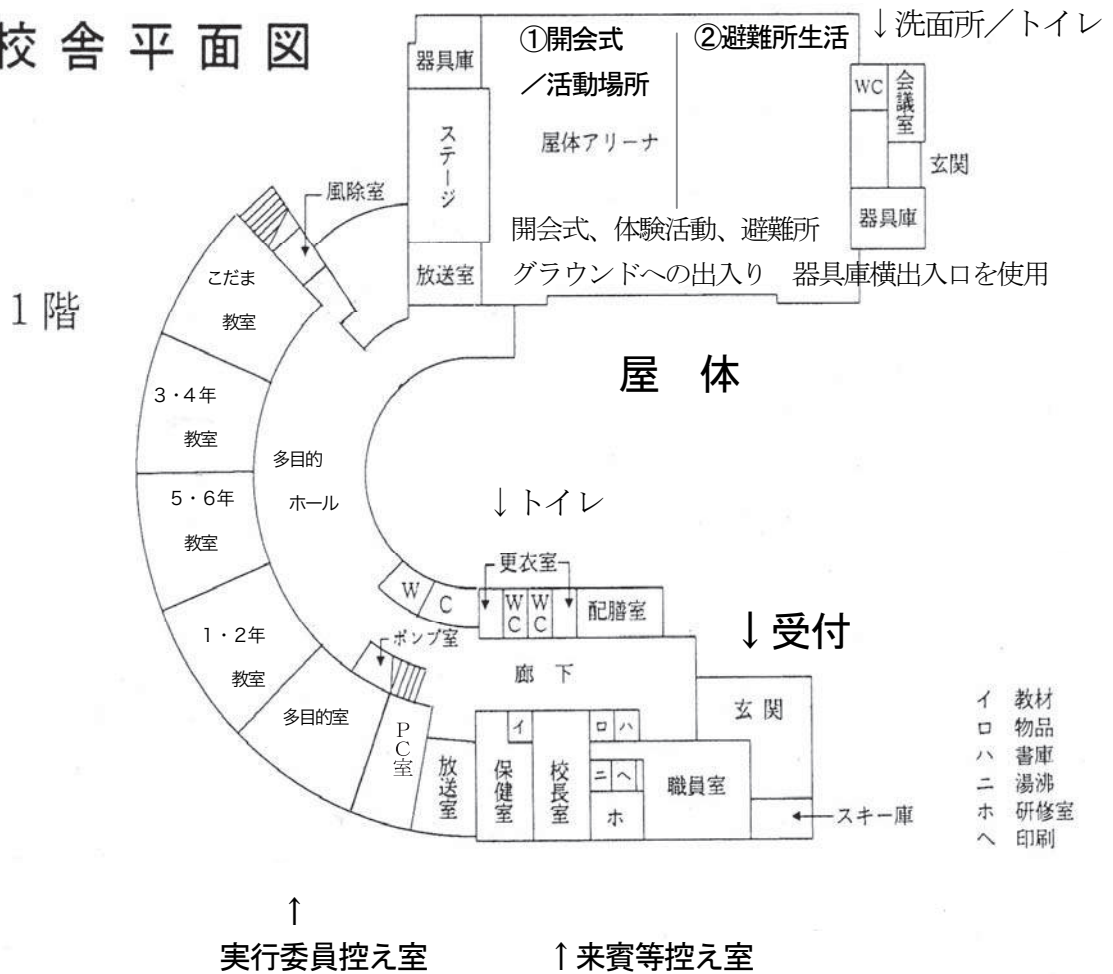
## 3 全員で記念撮影

壮瞥町防災キャンプ2012の記念集合写真



#### 4) 防災キャンプ会場（久保内中学校校舎）平面図

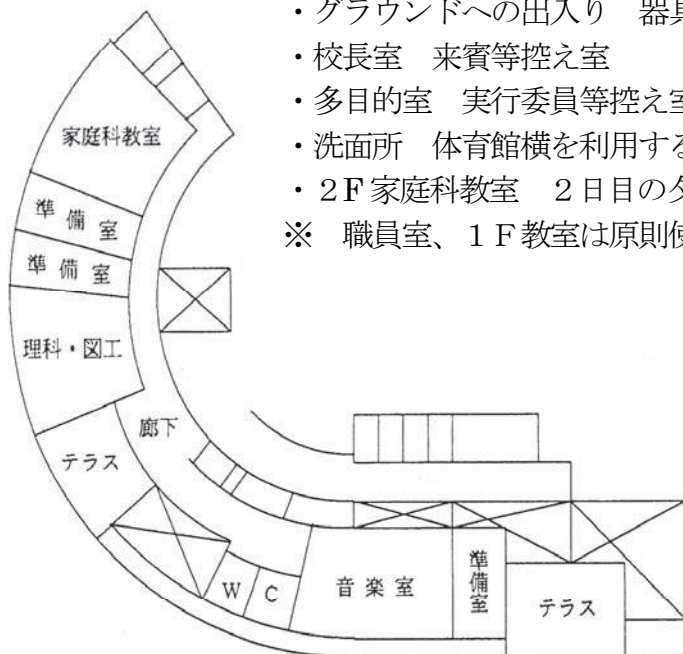
### 校舎平面図



- イ 教材
- ロ 物品
- ハ 書庫
- ニ 湯沸
- ホ 研修室
- ヘ 印刷

### 基本情報（活動場所）

- ・受付 通常の玄関
  - ・屋体アリーナ 開会式、体験活動、避難所
  - ・グラウンドへの出入り 器具庫横出入口を使用
  - ・校長室 来賓等控え室
  - ・多目的室 実行委員等控え室、スタッフ打合せ
  - ・洗面所 体育館横を利用する。
  - ・2F 家庭科教室 2日目の夕食準備で利用
- ※ 職員室、1F 教室は原則使用しない。

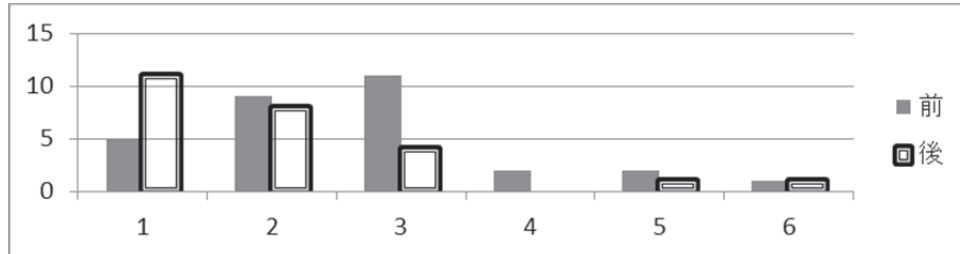




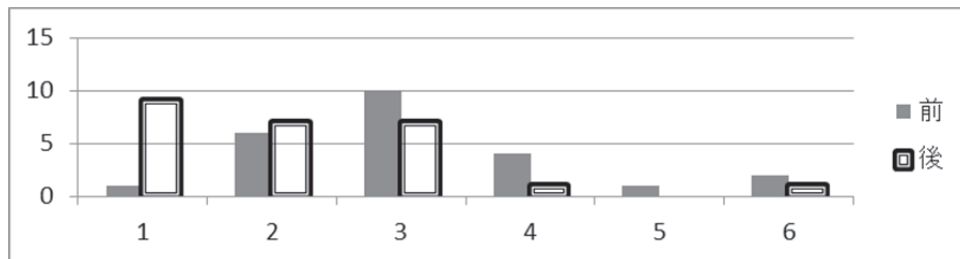
## 5) 参加者アンケート (実施前と後に同じ問への回答)



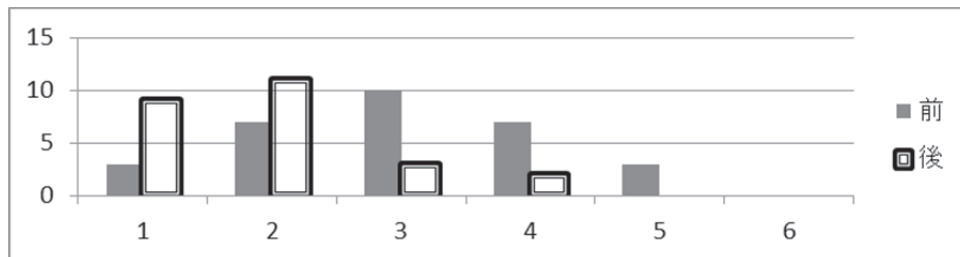
1. 身近に起こり得る災害について知っている。



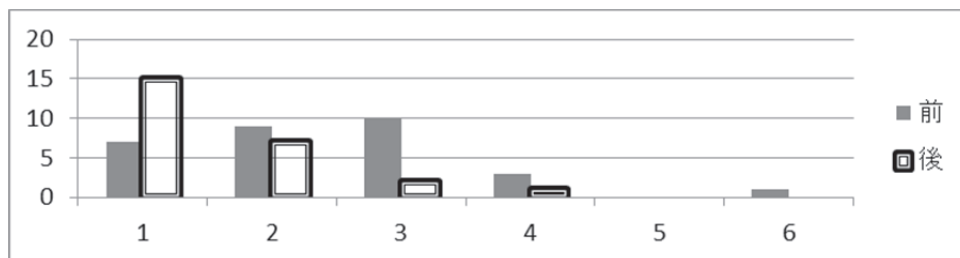
2. 避難所の機能（仕組み）を理解している。



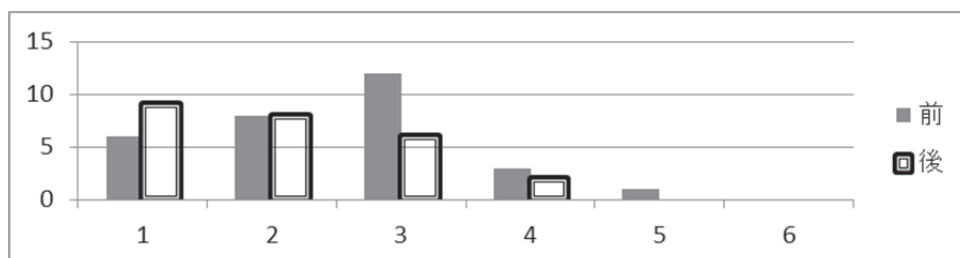
3. 避難所の設営や運営を協力して行うことができる。



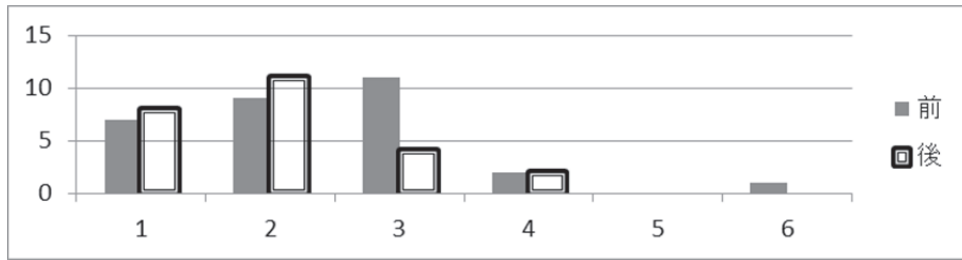
4. 自分のことは自分でできる。



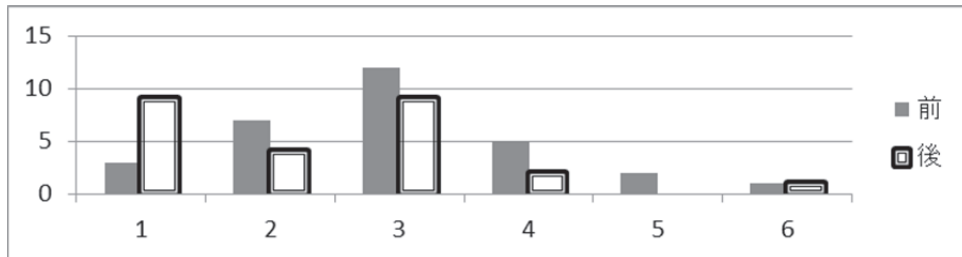
5. 人の話をきちんと聞くことができる。



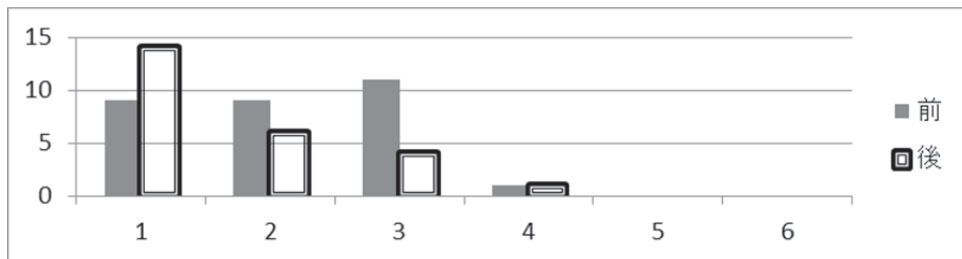
6. 約束やルールを守ることができる。



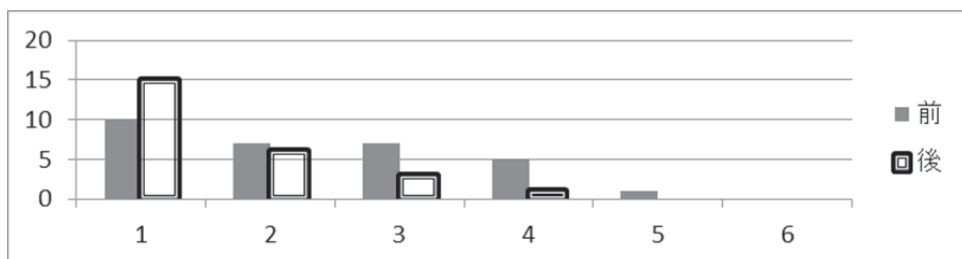
7. 自分の考えを人に正しく伝えることができる。



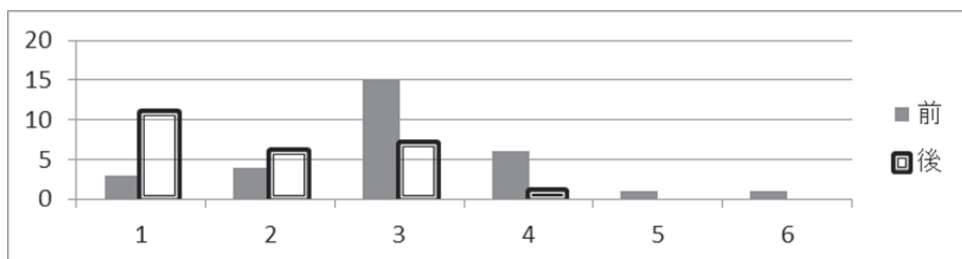
8. 人と協力することの大切さを理解している。



9. 東日本大震災の被災地の状況を知っている。



10. 何事も自分から進んで取り組むほうだ。



## キャンプ実施後の感想・意見等（自由記載欄）

- たくさんの人と関わり、たくさんのことを学べた3日間でした。
- この3日間不自由な生活だったけど、みんなと協力して最後までのりきれてよかった。
- 話を聞くのは楽しくなかったけれど、それ以外はたのしかった。
  
- 被災地の様子を見てとても殺風景で驚きました。
- この防災キャンプを通して、人と協力する事の大切さを学ぶ事ができた。
- 防災キャンプに参加してとても良かった。
  
- 最初はボランティアと参加者の狭間で自分はどうすればいいのか迷っていましたが周囲の皆さんの心遣い(お気遣い)と素敵な子どもたちに恵まれ充実した3日間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。
  
- 最初の頃の自分とは被災に関する考えが変わった。絆が大切だと理解できた。防災キャンプに参加して良かったです。• 参加させていただきありがとうございました。とてもいい勉強になりました。高校生リーダーの実行力やたくましさを感じました(立派でした)
  
- キャンプ参加によって防災意識を高めることができ勉強になりました。お世話になりました。高校生が生き生きして活動にとりくんでいる姿とても良かったです。パワーもらいました。
  
- 3日間の運営、これまでの準備、本当におつかれさまでした！
- 3日間ありがとうございました。とても自分の為になりました。家族にもおしえたいです。
- 防災キャンプに参加してとても良かった。
  
- 防災キャンプを運営してくれたみなさん、ありがとうございました。
- 保護者としての参加は不要だと思いました(どういう立場でいればいいか？傍観者は疲れしました)。

## 6) 教育局長レポート

防災キャンプ事業及び洞爺湖有珠山周辺地域の取組、並びに当地域の教育行政推進に平素大変お世話になっております胆振教育局長 寺脇文康様の玉稿をここに掲載させていただきます。

### 教育局長レポート — 胆振 平成24年8月 —

胆振教育局長 寺脇文康

#### 壮瞥町防災キャンプ

- 8月17日から19日まで、文部科学省委託事業の防災キャンプが壮瞥町で開催され、小学生8名、中学生5名、高校生10名、教諭2名、保護者3名、一般道民2名、計30名が参加して、小学校での2泊3日の避難所生活を体験した。
- 宿泊体験に加え、有珠の主治医である岡田弘北大名誉教授(本事業の実行委員長)、昭和新山の三松正夫記念館長三松三朗氏(同副委員長)、更に津波防災教育により昨年の「釜石の奇跡」を生み出した元釜石市消防防災課長末永正志氏(現日本ボーイスカウト岩手連盟理事長)の講話、岡田名誉教授や三松氏の指導による昭和新山や有珠山でのフィールドワーク、室蘭地方気象台による気象実験など、盛りだくさんの内容であったが、体調不良やホームシックもなく、全員がすべてのメニューをやり遂げた。
- メインイベントの一つであった「防災ヘリ救出訓練見学」は天候悪化により残念ながら中止となったが、宿泊を伴う体験活動を通して、子供たちが、座学や日帰りでは得ることのできない成果を体得できたものと確信している。
- また、高校生参加者が、学校長が感心して見直す程、小・中学生に対するリーダーとしての役割を果たして活躍したのも、大きな収穫と言える。
- キャンプ2日目には、文部科学省スポーツ・青少年局青少年課の勝山浩司課長ら3名が見えられ、有珠山フィールドワークや気象実験に参加したほか、壮瞥町田鍋敏也教育長の案内で噴火遺構や火山科学館なども視察していただいた。
- 田鍋教育長は、町の企画調整課長・総務課長として、2000年噴火の緊急対応・復興計画や、洞爺湖周辺エコミュージアムから世界ジオパークに至る事業推進の中心として活躍してきた方であり、内閣府の火山防災対策の懇談会や検討会の委員もされている火山防災行政のエキスパートである。
- 全国の防災キャンプの中で火山防災をテーマとするのは壮瞥町のみとのことであるが、岡田名誉教授や田鍋教育長の実地に即した懇切な説明で、勝山課長一行にも地域の状況を十分に知っていただけたものと考えている。
- 有珠山は2000年噴火が生活圏を直撃したが、1万人余の事前避難により死傷者はゼロであった地域であり、この背景には岡田名誉教授を始めとする地域防災に理解のある専門家の存在や、30年の歴史ある「壮瞥町子ども郷土史講座」等、長年、火山との共生の理念のもと火山を知る取組を継続してきた地域文化によるところが大きい。
- 今回の防災キャンプにおいては、こうした地域の素地に助けられ、教育委員会を含め役場全体から25人ももの献身的な協力をいただいた。なお、田鍋教育長からは、避難所運営などの経験がない若手職員が運営に携わったことは、町の職員にとっても貴重な経験となったと言っていた。
- また、有珠山地域には、噴火の記憶や防災・減災の知恵などを次世代に語り継ぐために創設された「洞爺湖有珠火山マイスター」という認定制度があり、質の高い火山ガイドや地域防災の助言協力、学習会の講師などに活躍している。今回、多数のマイスターからもバックアップをいただき、感謝の念でいっぱいである。

#### 避難所の設置

#### 非常食クッキング

#### 昭和新山登山



#### (追記)

昭和新山登山には町内の校長が全員参加し、心地よい汗をかいていました。こういう実地体験は、確実に今後の危機管理に役立つはずで、管理職研修としても大きな効果があったと思います。

火山マイスターは、現在、総合振興局とジオパーク推進協議会が協同で運営していますが、実は、私が胆振支庁地域振興部長のときに制度づくりをし、第1回の認定までこぎ着けた、思い入れの強い制度です。当時、岡田名誉教授や三松館長、田鍋教育長(当時は総務課長)と一緒に、合わせて10回近く有珠山や昭和新山に登ったことは忘れられない思い出です。今回も、文科省対応がなければ、一緒に登りたかったところです。

元釜石市消防防災課長末永氏が講話で言われた話です。「報道だけでは現場の痛みは分からない。実際に目の前で人が流れていたり死んでいたりした痛みは分からない。現場に入って生々しい実像を見て初めてそれが分かる。善悪の話ではないが、外国報道では遺体等の生々しい写真が発表されるが、日本の報道は自主規制を掛けてしまう。」皮相な感想と許されない口調が印象に残りました。

## 7) 防災キャンプ事業に関係した皆さん

来賓等 文部科学省スポーツ・青少年局青少年課長 勝山浩司氏  
〃 係長 穴澤忠弘氏  
〃 事業係 古舘尚史氏  
北海道教育庁総務政策局 局長 杉本昭則氏  
北海道教育庁学校教育局 次長 秋山雅行氏  
〃 参事 新納隆司氏  
北海道教育庁胆振教育局 局長 寺脇文康氏  
北海道総務部危機対策局危機対策課防災グループ主幹 (地震・津波対策)  
高見芳彦氏  
防災キャンプ推進事業運営会議 委員長  
北海道教育大学 准教授 今 尚之氏

講師 日本ボーイスカウト岩手連盟 理事長  
元岩手県釜石市消防防災課 課長 末永正志氏  
特定非営利活動法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会 副理事長 加賀谷仁左衛門氏

視察 北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター 助教 定池祐季氏  
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 主任研究員 阪本真由美氏

### 実行委員会委員 【敬称略】

委員長	町防災学識アドバイザー	岡田 弘
副委員長	町防災会議専門委員	三松 三朗
委員	火山マイスター	松本ありさ
委員	室蘭地方気象台防災業務課長	櫻井 敬
委員	胆振教育局教育支援課長	五十嵐 晋
委員	西胆振消防組合壮警支署長	藤川 修一
委員	壮警町立久保内小学校校長	竹本 啓二
委員	壮警小学校校長	柿崎 幸恵
委員	壮警中学校校長	新沼 潔
委員	久保内中学校校長	高島 康範
委員	壮警高等学校校長	谷坂 常年
委員	壮警町総務課長	工藤 正彦



平成24年8月9日開催の第2回実行委員会  
(壮警町地域交流センター)

### ○協力

医療法人 交雄会 そうべつ温泉病院  
ワカサリゾート(株) 有珠山ロープウェイ  
洞爺湖有珠火山マイスター 有志  
特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構

## 【参加者】

- 高校生リーダー 壮警高校生 1年生5名 2年生5名 計10名
- 参加申込者 壮警小学校児童4名 久保内小学校児童4名 計8名
- 壮警中学校生徒2名 久保内中学校生徒3名 計5名
- 保護者 3名 教諭 2名 一般2名 計7名 合計30名

## 【運営管理スタッフ】

地域の災害環境への認識を深め、児童生徒、住民の安全確保に必要な対応策を研修する。  
発災時をイメージし、避難所開設、運営に必要な事項を主体的に考え実践する。

### ・当日の役割

スタッフで協力し、次の視点で、高校生リーダーや児童生徒の体験的な学びを助ける。  
視点：各グループの見守り、危険行為の注意喚起、参加者の体調把握

### ・名簿（敬称略。※は全日程参加）

室蘭地方気象台 防災業務課火山防災官 新山亮二 同課防災指導係長 向井伸夫  
同課防災業務係長 佐々木章嘉  
技術課主任技術専門官 岩川憲司 同課 堀田純司  
北海道教育庁学校教育局参事（生徒指導・学校安全）生徒指導・学校安全グループ  
主査 小田将之 主任 青山 努  
北海道教育庁胆振教育局 係長 福井寿洋 主査 山田智章 主事 清水愛子  
特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構  
主任研究員 菱村里佳 // 伊藤晋 // 広田達郎  
壮警町立壮警小学校 教頭 笹森恭之 教諭 大野道行 // 稲垣利春 // 上野真和  
久保内小学校 事務員 川野和雄  
壮警中学校 教諭 瀬戸さやか // 金丸大輔  
久保内中学校 教頭 中島英治※ 教諭 横山映理奈※ // 中村郁 // 坂井直樹  
壮警町役場 総務課 課長 工藤正彦 係長 高橋俊也 // 清野直樹  
主事 加賀谷にれ // 北越美紀子  
税務財政課 主事 武川太郎  
住民福祉課 保健師 渋谷知子 // 櫻井愛美 管理栄養士 佐藤緑  
主事 篠原真吾 // 中塚いおり // 川森翔太 // 中路さくら  
経済環境課 課長 山本貴浩 主事 加納翼 // 堂下洋紀  
商工観光課 主幹 三松靖志  
建設課 主幹 山崎清輝 係長 佐藤祐仁 技師 森良輔  
議会事務局 主事 谷永直樹  
教育委員会生涯学習課 課長 小林一也 主幹 河野圭 係長 今川智子 // 細川貴弘  
係長 蛭名雄一 図書司書 土橋美耶 主事 佐藤綾美

### ○緊急時の連絡先（市外局番なしは 0142）

- ・町教育委員会 TEL 66-2131 FAX 66-2132 ・町総務課 TEL66-2121
- ・胆振教育局教育支援課社会教育指導班 TEL0143-24-9893 FAX 0143-22-6950
- ・北海道教育委員会学校教育局参事生徒指導・学校安全G TEL011-231-4111
- ・北海道警察札幌方面伊達警察署 TEL22-0110
- ・札幌方面伊達警察署壮警駐在所 TEL66-2110 ・久保内駐在所 TEL 65-2374
- ・西胆振消防組合壮警支署 TEL 66-2119
- ・医療法人交雄会そうべつ温泉病院 TEL65-2221 ・伊達赤十字病院 TEL23-2211



## 參考資料





# 1 参加者へ配布した資料等

## 壮瞥町防災キャンプ 参加者募集

と き…平成24年8月17日(金)～19日(日)  
※2泊3日の日程で行います。

と こ…壮瞥町立久保内小学校体育館

主 催…壮瞥町教育委員会

対 象…小学校4年生以上の児童、中学生、高校生、児童生徒の保護者、地域の方（他市町にお住まいの方も参加できます。）

定 員…45名（申し込み先着順）

参加費…2,500円（食事代、傷害保険料）

内 容…防災リーダー研修会（高校生を対象）  
※防災キャンプ前夜2回実施します

○防災キャンプ  
講 義：「東日本大震災の教訓」  
体験活動：「避難所の役割・建設」「DIG 体験」「防災へ」  
試着体験：「防災」  
※内容は変更になる場合があります。

お申込み…壮瞥町教育委員会生涯学習課  
お問い合わせ…電話 0142-66-2131

壮瞥町防災キャンプ参加申込書

姓 名	姓	名	年 齢	性 別	保護者名	姓	名
学 校 名	学 年	保 護 者 の 職 業	有、無				
電話番号	緊急連絡先 (参加者の住所)						

※小・中・高校生は、必ず保護者の同意をもらってください。保護者名に記入し、押印してください。  
※保護者が参加される場合は、「保護者の職業」欄の書き方をご確認ください。

○募集のチラシ A4判 2,000部  
7月1日壮瞥町内全世帯  
壮瞥町内全学校へ配布

平成24年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」

## 壮瞥町 「防災キャンプ」資料

### 避難場所

**主催：壮瞥町教育委員会**  
〒052-0101  
北海道有珠郡壮瞥町字滝之町287番地7  
TEL0142-66-2131 FAX0142-66-2132

○壮瞥町「防災キャンプ」資料 A4判12頁  
参加申込者へ事前の資料として配付  
会場図、各体験活動の概要と注意点

平成24年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」

## 壮瞥町 「防災キャンプ」のしおり

期日：平成24年8月17日(金)～19日(日)  
会場：壮瞥町立久保内小学校  
洞爺湖有珠山ジオパーク（有珠山・昭和新山）

**主催：壮瞥町教育委員会**  
〒052-0101  
北海道有珠郡壮瞥町字滝之町287番地7  
TEL0142-66-2131 FAX0142-66-2132

○壮瞥町「防災キャンプ」のしおり A4判12頁

目次	P1 事業のねらい	P2 実施要領・プログラム	P4 防災キャンプの心得
	P5 持ち物・服装	P6 日程とメモ	P11 参加者名簿

## 防災キャンプの持ち物・服装

※今回、必要な持ち物

チェック【日用品】	チェック【服装】	チェック【その他】
筆記用具	上靴	リュック
しおり	蓄替え(Tシャツ等5枚)	虫除け
コップ	蓄替え(肌着)	懐中電灯
洗面用具	蓄替え(上着・靴下)	ポケットティッシュ
タオル2～3枚	帽子	薬(飲んでいる場合)
歯ブラシ 歯みがき粉	薬手	生理用品
入浴用具	歩きやすい靴	

**【注意事項】**

- 持ち物には出来るだけ名前を書いてください。
- 参加費参加料は500円以外に必要ありません。
- 携帯ゲーム機や音楽機器など個人的性質のもの持参する場合は事前に必要ありません。

**【服装について】**

- 軽登山(フィールド活動)を行います。ジーンズなど動きやすい服装(短パン・靴下)、歩きやすい靴で参加してください。
- 日中は直射日光が強いので帽子をかぶり洞爺新山登山時マスクを着用してください。
- 飲み物をお持ちしますのでリュックサックを持ってきてください。

**【その他】**

- 朝晩、冷え込むこともありますので、上着や軽防雨具を持参し、適宜、体温調整をして体調管理にご注意ください。

**参考資料 実際の避難で上記のほかに必要な持出品リスト**

○今回は必要ありませんが、避難に必要と思われるものを事前に準備しておくことが大切です。

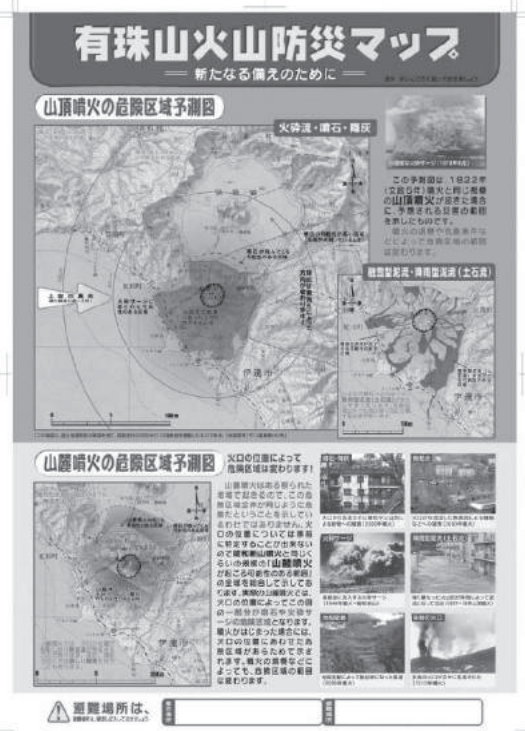
チェック【食料品・飲料水】	チェック【飲料品】	チェック【貴重品・医薬品】
保存水	避難時は防寒着	現金
レトルト食品、缶詰等	使い捨てカイロ	現金簿帳・印鑑
乾パン、カローリー食品	ヘルメット又は防災ヘルメット	運転免許証
チョコなど菓子類	予備のめがね	自動車のキー
箸(ばし)・スプーン		保険証、パスポート

チェック【持ち物がない家庭】

携帯電話、携帯電話	常備薬、消毒液
携帯電話	ビニール袋
ティッシュ	タオル
ウェットティッシュ	ライター、マッチ
はさみ	万能ナイフ
体温計	

○非常持ち出し袋などは、いつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。

○ 防塵マスク 水 ハザードマップ 有珠山の火山灰



○ 当日会場に展示された火山関連の図書



## 2 学校安全の推進に関する計画

教 胆 第 7 9 2 号

平成24年5月9日

各 道 立 学 校 長  
各市町教育委員会教育長 様

北海道教育庁胆振教育局長 寺 脇 文 康

「学校安全の推進に関する計画」の策定について（通知）

このことについて、平成24年4月27日に別添のとおり、「学校安全の推進に関する計画」が、閣議決定されましたので、お知らせします。

学校安全の推進に関する計画については、学校保健安全法に基づき、各学校における安全に係る取組を総合的かつ効果的に推進するため、国が策定することとなっているものです。

本計画は、平成28年度までの学校安全の推進に関する施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにするものであり、地方公共団体においても、本計画を踏まえ、計画を策定するよう努めることとされております。

担当 教育支援課教育支援係 主事清水  
TEL 0143-24-9892 (直通) 内線 3211  
FAX 0143-22-6950  
E-MAIL shimizu.aiko@pref.hokkaido.lg.jp

### 学校安全の推進に関する計画(抜粋)

平成24年4月27日

#### II 学校安全を推進するための方策

##### 1. 安全に関する教育の充実方策

- (1) 安全教育における主体的に行動する態度や共助・公助の視点
- (2) 教育手法の改善

##### <具体的な方策>

- 国は、地域で語り継がれてきた災害教訓を児童生徒等に伝える学習活動が円滑に進むよう、関係機関が連携し、災害教訓の取りまとめや学校現場への提供に努める。
- 防災教育にも資する自然体験活動がなされるよう、大学等の研究機関や独立行政法人国立青少年教育振興機構、民間団体等により開発された先進的な体験を推進する。
- 国は、各地域の特性に応じた体験的な防災教育を推進するため、学校等を避難所と想定した生活体験等の防災教育プログラムを地域住民や保護者の協力を得て実践する「防災キャンプ推進事業」の実施と成果の普及に努める。

### 3 実行委員会設置要項

#### 壮瞥町防災キャンプ事業実行委員会設置要項

(目的)

第1条 有珠山火山噴火を主たる対象とした災害発生時の適切な対応や地域における過去の災害について学ぶ機会を提供することにより地域住民の防災意識を高め、また、地域の防災活動の中核を担う高校生や住民のリーダーを養成するとともに、住民同士の共同作業やふれあい体験を通じて、地域の絆づくりを促進し、住民が主体となった地域の防災体制・ネットワークづくりを目的とした「壮瞥町防災キャンプ」を実施するため、壮瞥町防災キャンプ事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 実行委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 高校生防災リーダーを養成するための研修会の内容の検討、決定及び実施
- (2) 防災キャンプの内容の検討、決定及び実施
- (3) 北海道教育庁が設置する事業運営会議等への参加
- (4) 全道防災教育研究フォーラム等への参加
- (5) その他壮瞥町防災キャンプ事業の実施に必要な事項

(組織構成)

第3条 実行委員会の組織は、以下の委員をもって構成する。

- (1) 学識経験者 3名
- (2) 室蘭気象台職員 1名
- (3) 胆振教育局職員 1名
- (4) 西胆振消防組合伊達消防署壮瞥支署職員 1名
- (5) 壮瞥町職員 1名
- (6) 町立学校職員 5名

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総括する。

4 委員長が不在のときは、副委員長がその職務を代行する。

(会議)

第4条 実行委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長が務める。

3 会議には、必要に応じて、委員以外の者を出席させて意見を聞くことができる。

(事務局)

第5条 実行委員会の事務局は、壮瞥町教育委員会生涯学習課に置く。

2 事務局は、会務の処理のほか、関係機関、関係団体等との連絡調整を図る。

(その他)

第6条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要項は、平成24年6月22日から施行する。

## 4 久保内小学校の防災計画

### 平成24年度学校経営計画 久保内小の教育より抜粋 《有珠山噴火を想定した防災計画》

#### I 防災計画の目的

##### 1. はじめに

(略) 久保内地区は有珠山から10kmほど離れており、噴火による火山弾、火砕流等の被害による人命にかかわる直接の被害はないと思われる。しかし、(略) 本町地区が被害を受けた場合、多数の町民の避難場所となることが予測される。(略) 有珠山噴火の緊急事態に備え、児童一人一人の安全確保に即応できる防災体制を確立しておく必要がある。このことを踏まえ以下の防災計画をもって有珠山噴火に対する危機管理と指導に努めたい。

##### 2. 学校防災における計画の目的

- ① 有珠山噴火などの災害から児童の生命・健康を守る。
- ② 学校の施設・設備などの点検・整備を行う。
- ③ 学校生活における危険を速やかに発見し、除去する。
- ④ 児童が、有珠山噴火などの災害から自らの生命を守るために必要な事項について理解を深め、安全な行動をとれる能力や態度を育てるよう計画的に指導する。
- ⑤ 噴火の前兆地震、噴火、それに伴う災害発生時などに、速やかに児童の避難・誘導を行える体制を整える。
- ⑥ 学校が避難場所となる場合の対応と体制を含め、緊急措置を講じ得る体制を整える。
- ⑦ 災害後、速やかに正常な学校教育が再開できる体制を整える。

#### II 学校の防災体制

##### 1. 防災組織（体制）

- (1) 平常時における校内防災組織（体制） (略)
- (2) 災害時における学校防災組織（体制）

火山噴火予知連（噴火予知連）や室蘭地方気象台の出す有珠山に関する火山情報、又は、壮瞥町地域防災計画に基づく壮瞥町災害対策本部・壮瞥町教育委員会からの指示・伝達を踏まえ、校長の判断により設置される。本部は、校長ほか全教職員で構成し、校内における児童の安全確保に努める。（組織図 略）

#### III 日常講じておくべき処置

##### 1. 施設・設備の管理及び点検・整備 (略)

##### 2. 防災教育の実施

###### (1) 防災教育のねらい

- 学校における安全教育の一環として、噴火や地震などの自然災害や、それに伴うさまざまな災害の発生メカニズムや危険性の理解を深める。
- 児童の発達段階に即しながら、災害への対応能力を身に付けさせる。
- 日常的な災害への備えについて理解し、実行に移す。

###### (2) 防災教育の重点 (略)

###### (3) 指導内容等 (略)

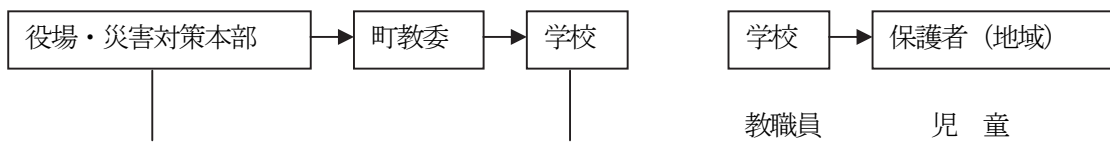
##### 3. 防災教育の実施計画作成上の留意点

計画的な防災教育を進めるため、次の点に留意し効果的、継続的な実施計画を作成する。

- (1) 実践的な防災能力を育成する場の設定
  - 避難訓練の時期、災害の種類、対象、回数、実施方法等についての検討
  - 防災体験学習会の設定
- (2) 教職員の防災教育に関する指導力及び災害時における対応力の向上
  - 研修の充実、指導資料の作成
  - 応急処置の技能の習得
- (3) 「開かれた学校づくり」の推進
  - 非常時の場合に、地域との絆が生かされるような基盤づくりの推進
  - 保護者や地域の防災関係機関・団体等の参加による「防災教育委員会」の設置
  - 地域防災機関への「学校安全委員会（自衛防火・防災委員会）」の参加

#### 4. 情報連絡体制の整備

災害時における情報連絡を的確かつ円滑に行うため、児童・保護者・地域・関係機関との情報連絡手段・体制の整備



※ 災害時における児童の引き渡しの方法や旅先等での災害も予想されることから、連絡場所・方法も周知しておく。

5. 学校安全度の評価・改善 (略)
6. 非常用物資の備蓄管理 (略)

## IV 災害時の児童の安全

(略)

### 1. 災害発生時別の教職員の緊急対応

(略) 学校・家庭・地域が協力して対策を練り、児童が、非常時に「自分の命は自分で守る」ことができるように、日常的に指導しておかなければならない。

#### 在校時

《各教科等の学習中の場合》

#### A. 教室等での学習中 (担任が指導中)

◇地震が発生した時 (略)

◇噴火が始まった時 ※ヘルメット、ゴーグル、マスク、ネームプレート等の準備・装着

- ・校長(教頭)の指示により直ちに授業を中止し、用具(教科書や座布団、鞆等)を持って、体育館に集合する。
- ・担任は、安全迅速に児童を誘導し、人員を確かめ、校長(教頭)に報告する。
- ・集団下校させる場合は、地区ごとに編成し、地区担当者が人員を校長(教頭)に報告する。
- ・搬出係は、教頭の指示により、重要種類を非常袋に入れ、搬出の準備をする。
- ・校長(教頭)は、状況及び情報に基づいて臨機応変迅速に必要な措置を指示する。

◇火災が発生した時 (略)

#### B. クラブ活動中 (略)

#### C. 学校・学年行事中 (略)

《休憩時間》（始業前、休み時間、放課後）（略）

学校外の諸活動中（修学旅行、見学旅行、遠足、他の校外学習）

（略）

登下校時

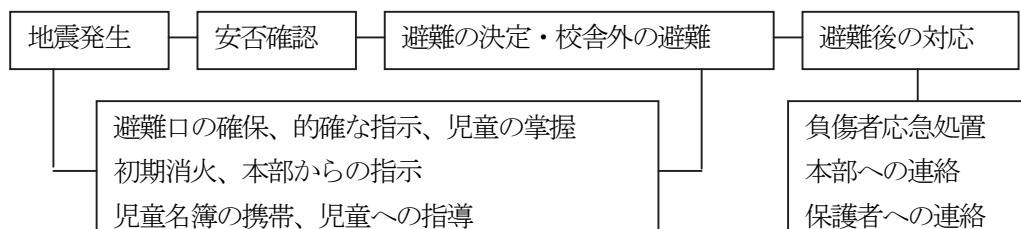
① 登校時（略） ② 下校時 … 登校時と同じ（略）

夜間・休日

## 2. 災害発生時の対応マニュアル一覧

(1) 登下校時（略）

(2) 学校内



(3) 校外学習（略）

## 3. 学校防災に関する特別委員会の設置

### 4. 医療機関との連絡体制の整備

- ・医療機関との連絡体制
- ・保健室における救急処置体制の整備

### 5. 保護者との連絡、引き渡し

- ・学校は、保護者に学校防災に関する計画を周知させ、児童の引き渡し方策について具体的に協議するなど、非常時における速やかな連絡手段を整えておく。
- ・保護者が昼間家庭にいない場合等についても考慮する必要がある。

(1) 引き渡し場所（略）

(2) 引き渡し方法（略）

### 6. 学校の施設・設備の被災状況の点検（施設・設備の安全点検表の活用）（略）



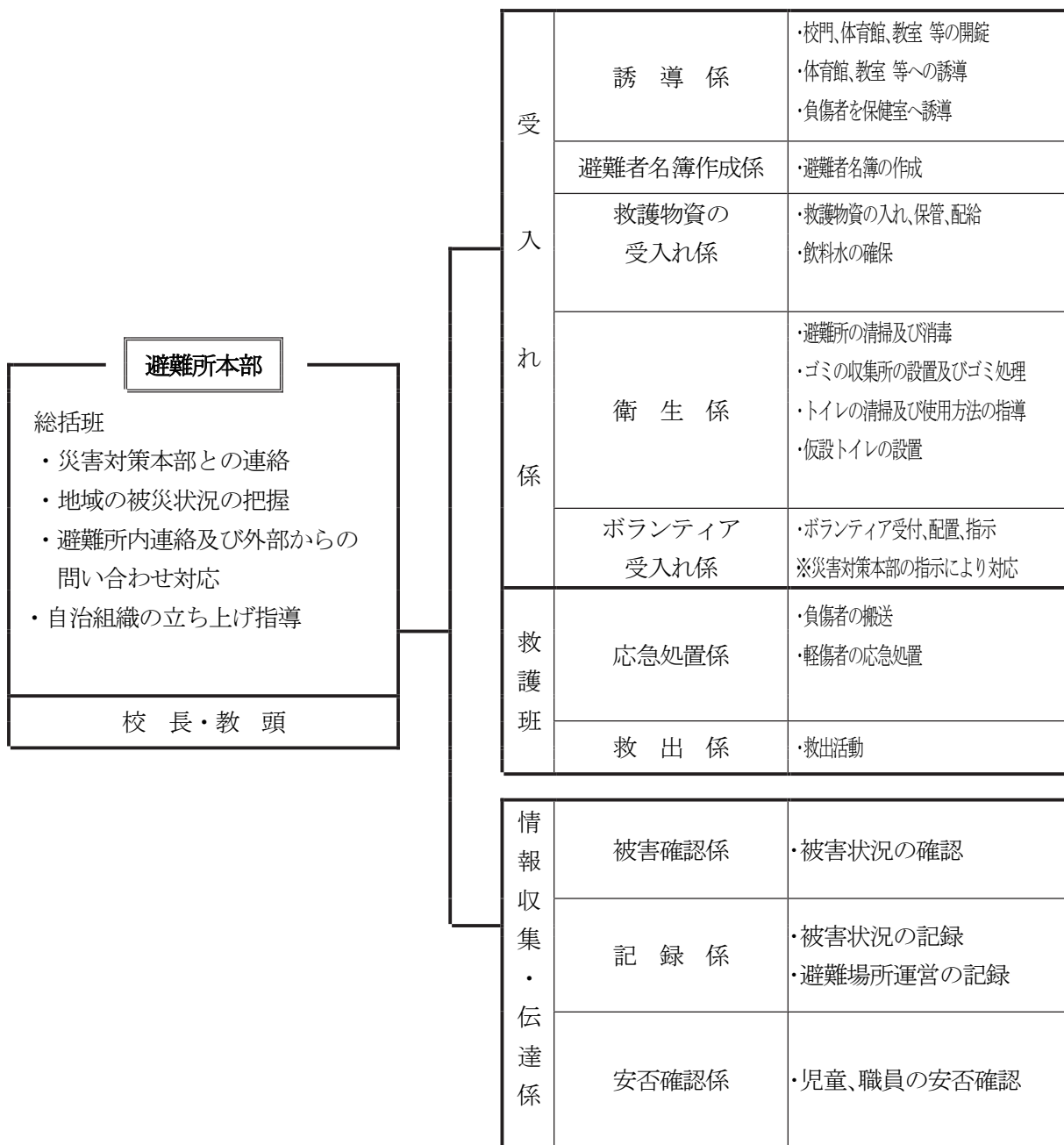
## V 避難所としての運営

### 1. 避難所としての学校

学校が災害時における避難場所となった場合、避難場所としての管理の主体は、本町に設置される災害対策本部から派遣される災害対策担当職員（避難所担当管理者）となり、避難場所に指定されている学校は、迅速な避難場所の開設及びその運営に協力し、支援する立場にある。特に、発生初期の段階においては災害対策担当職員による対応が困難な場合が想定されるため、教職員が協力・支援することが地域住民の生命を守るために期待されている。

#### (1) 避難場所の運営体制と業務

災害対策担当職員が派遣されるまでの間、避難場所の運営に係る業務はすべて教職員で分担し、実施しなければならないため、常日頃から災害時を想定して運営組織を構成し、それぞれの業務内容の徹底を図り、円滑な運営ができるよう心がける必要がある。



(2) 初動体制と業務

避難所として学校を開放し、その運営をする場合、災害が発生した時間帯や規模にもよるが、職員の勤務時間帯か否か（夜間、休日、祭日、土曜日等）が初動体制に大きく影響する。特に、職員の勤務時間外の場合、学校への速やかな非常参集が業務運営を円滑に推進することになる。

係 名	業 務 内 容	
受 入 れ 係	誘 導 係	(1) 体育館、教室、特別教室を開け、避難者を誘導する。 (2) 負傷者を保健室へ誘導する。（救護班により応急処置） (3) 負傷者を保健室へ誘導する。（救護班により病院へ搬送） (4) 自家用車を整理する。
	避難者名簿 作成係	(1) 避難者の各世帯主より、家族全員の氏名、性別、年齢、住所、健康状態を所定の用紙に記入し提出してもらう。 (2) 資料をもとに、避難者の掌握に努める。 (3) 避難者が避難所を去る時は、退所届に退所日時、転出先等を記入してもらう。
	救援物資 受入れ係	(1) 救援物資受入の際、どこから（送り主名、団体名、住所、電話番号）、何が、何個来たのかを確認し、記録する。 (2) 物資の種類、数量、避難者数を考慮し、配給する。 (3) 配給車が駐車できる場所を確保する。
	衛 生 係	(1) 避難所内外の清掃及び消毒（避難者の協力により） (2) ゴミ集積場所を設置する。 (3) ゴミの処理をする。（自治体のゴミ収集が可能な場合） (4) トイレの使用方法（断水時）の指導をする。 (5) 仮設トイレの設置及び清掃、消毒をする。
救 護 班	ボランティア 受入れ係	(1) ボランティアの所属名、住所、氏名、年齢、性別、滞り場所、資格等を所定の容姿に記入、提出してもらう。 (2) 職員ならびにボランティアは、責任者の指示により避難所運営にあたる。 ※災害対策本部の指示により対応する。
	応急処置係 救 出 係	(1) 軽傷者を保健室に誘導し、応急処置を行う。 (2) 負傷者がいた場合、救急車を要請する。もし、救急車の要請が不可能な場合、受入可能な病院に搬送する。 (1) 地域住民からの救出要請があれば、安全を確認し、住民と協力して救出にあたる。
情 報 収 集 ・ 伝 達 班	被害確認係	(1) 学校の被害状況を調べる。（校舎、電気、水道、ガスなど） (2) 学校周辺の被害状況を調べる。（被災家屋、交通） (3) 二次災害の恐れの有無を確認する。 ※上記の情報を本部に伝達し、指示を受ける。 (4) 収集した情報を避難者に伝達する。 (5) 避難者名簿で全国からの安否確認に対応を行う。
	記 録 係	(1) 学校や学校周辺の被害状況を写真に撮る。 (2) 避難所運営の記録をする。
	安否確認係	(1) 児童の安否の確認を行う。

### (3) 避難所としての施設の利用

学校の施設・設備を災害時の施設・設備として利用する場合、壮瞥町、地域自治体の防災組織や災害時緊急対策委員会などの組織の一分野として活動することを基本とする。

したがって、災害発生時における上記組織の活動内容を把握し、歩調を合わせた避難所としての施設運営を実施しなければならない。また、そのためには、学校の施設・設備を避難所としても利用可能な状態に保守管理し、職員における日常的な管理点検においても、避難所を考慮して実施する。

学校の施設設備名	主たる避難所としての活用	機能と内容
普通教室	第〇避難所総括本部	(1) 避難所の責任者の執務 (2) 避難所兼学校運営の本部的機能 (3) その他
普通教室	第〇避難所援助職員室	(1) 避難所となった時点で教職員は自動的に援助職員となるので職員の待機室として機能 (2) 簡単な打合せ連絡、調整、休暇等に使用
保健室	救護・応急処置室	(1) 負傷者（軽傷者）の応急処置及び急病者の介護処置 (2) 重症者、重症人の病院への搬送までの看護室 (3) ストレスや心的外傷後遺症等の医療相談
(屋体)	避難所	※避難者の避難生活場所
普通教室	必要に応じて避難所とする	※避難所と同じ機能
体育館会議室 理科・図工室	ボランティア援助者控室 ※災害対策本部の指示により対応する	(1) ボランティア援助者の待機、休憩簡単な連絡調整室 体育館 (2) 必要に応じてボランティア援助者の宿泊場所、その他
家庭科室	避難者調理室	(1) 避難者の生活に伴う食生活の調理等 (2) 援助職員等の食料調理等 (3) その他
視聴覚室	避難所情報管理室	(1) 災害の状況及び現状並びに対策等の情報処理 (2) 避難者への連絡文章や通信等の作成 (3) その他
音楽室	避難所諸会議室	(1) 避難所各班及び各係連絡調整会議 (2) 避難者の係等の会議 (3) その他、諸会議及び打合せ、連絡調整

※ 学校教育を維持するため、校長室及び職員室は、避難所としての施設としては、利用しない。  
(以下、略)

# 避難所生活 対応力養う

## 大規模な災害想定 初の防災キャンプ

### 来月17日から2泊3日

#### 壮 警

有珠山噴火などの大規模災害を想定し、壮警町内で今夏、初めて行われる「壮警町防災キャンプ」の実施概要が固まった。ライフラインが途絶された環境を疑似体験し、避難所生活で求められる対応力、個々の役割分担などを身に付けるのが狙いだ。10日に1回目の実行委員会が開かれ、内容を確認した。

(菅原啓)

日程は8月17日から1年生以上の児童や中の2泊3日で、会場は高校生、保護者らを対象に壮警町久保内小学校体育館に定員は45人。参加費は1人2500円。

初日は地震・津波災害を想定し、電気やガス、水道、外部との通信網が途絶えた状態を再現。参加者らが災害直後の避難生活を疑似体験し、限られた食料、物資を有効に使用して救援が届くまでの避難所を運用、適切な対応を訓練する。2日目は有珠山噴火のDIG(災害図上訓練)を実施する。



この夏初めて行われる防災キャンプの内容を確認した第1回実行委員会

将来の災害に備え、高校生の参加者を対象にした事前研修を行い、キャンプを通して防災リーダーの養成も目指す。

期間中は、岩手県釜石市で東日本大震災に被災、3日間の避難所生活を体験した、元釜石市防災消防課長の末永正志さんを特別講師に招き、実体験に基づいた災害への備えについて講演してもらう予定だ。

キャンプの詳細、申し込み方法など問い合わせは町教育委員会(電話0142・66局2131番)へ。

### 北海道新

#### 育て若手防災リーダー

【壮警】地域防災の中心となる若者を育てる防災キャンプが8月17日から3日間、胆振管内壮警町で行われる。小学4年生、高校生が同町の小学校体育館に泊まり、断水・停電や避難所のプライバシー保持に対処する訓練を受ける。同様の研修は大人向けには各地で始まっているが、道務部危機対策課は「泊まりがけで開くのは珍しい」と話す。

参加者のうち高校生にはキャンプ前の8月2、9の両日、防災リーダー研修会も開く。子供の防災キャンプは、東日本大震災を踏まえ文部科学省が4月から全国に開催を呼び掛け、道内は壮警町教委が最初に手を挙げた。同町は町内にある有珠山の噴火に備え、小学3、6年生が年に1回、町防災アドバイザー

2012年(平成24年)7月31日(火曜日)

#### 断水対応などキャンプで訓練

ザイで北大名誉教授の岡田弘さんと有珠山へ登山し、講義を受ける郷土学習を30年前から続けている。道内一番乗りの開催となる防災キャンプについて町教委は「火山対策に限らずこれまでの実績を基に、北海道の防災教育先進地としての役割を果たしたい」と強調する。

震災では、身を守る素早い判断力を子供時代に養う重要性が指摘された。防災キャンプの講師には、岩手県釜石市で防災教育を進める同市の元消防防災課長も招く。

小学4年生、高校3年生を対象に、45人の定員に達するまで参加希望者を募集中。町外の子供や大人も受け入れる。参加料2500円、問い合わせは壮警町教委0142・66局2131番へ。

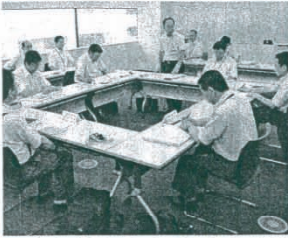
# 北海道通信

昭和50年6月12日第3種郵便物認可  
日刊 祝祭日、日曜日、土曜日 休刊

日刊教育版

第9812号 (木曜日) 5月24日  
北海道通信社 札幌市中央区北5条西6丁目  
電話(代) 222-3521 FAX 222-3532  
支社 東通3617-9680 旭川323287 函館27781  
支社 東通36541 帯広37872 釧路25044  
支社 東通36735 稚内393719 網走25188  
支社 東通36515 紋別397111 北見25186  
支社 東通36200 根室268028 空知250657  
支社 東通36513 (購読料) 1ヵ月12,600円

北海道通信  
2012.0726



道教委は、文部科学省の委託を受けて本年新たに「防災キャンプ推進事業」を実施する。災害や被災時の対応等の理解、学校等を避難所とした生活体験などからなる防災キャンプを行い、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進するもの。実施市町村は壮瞥町と厚岸町。それぞれ高校生防災リーダーを養成するとともに、防災キャンプを実施。その成果は「道防災教育研究フォーラム」などを通じて普及を図る。二十四日は札幌市で道教育大学札幌駅前サテライトで第一回事業運営会議を開く。両町の防災キャンプの内容等について協議した。

## 壮瞥町と厚岸町で実施 高校生防災リーダー養成も

### 道教委が新規で防災キャンプ推進事業

道教委は「各地域において、道教委が文科省の委託を受けて実施する。事業運営会議を設置し、防災教育プログラムを実施する防災キャンプを実施する」として、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進する。これは、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進する。これは、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進する。これは、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進する。

### 防災教育の観点で体験を

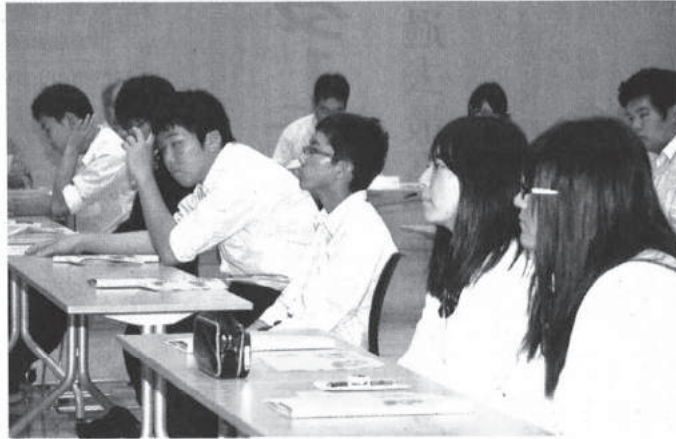
#### 第一回運営会議開き協議

道教委は、文部科学省の委託を受けて本年新たに「防災キャンプ推進事業」を実施する。災害や被災時の対応等の理解、学校等を避難所とした生活体験などからなる防災キャンプを行い、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進するもの。実施市町村は壮瞥町と厚岸町。それぞれ高校生防災リーダーを養成するとともに、防災キャンプを実施。その成果は「道防災教育研究フォーラム」などを通じて普及を図る。二十四日は札幌市で道教育大学札幌駅前サテライトで第一回事業運営会議を開く。両町の防災キャンプの内容等について協議した。

#### 正しい行動でできるように

厚岸町は、津波発生を想定したキャンプ。十月十九日～二十一日の三日間日程を予定。町指定避難施設の厚岸少年自然の家を会場に使用する。太平洋沿岸部を震源とする巨大地震発生時の適切な対応や地域における過去の災害について学ぶとともに、炊き出し体験等の避難所での体験活動を通して、災害発生時の具体的な対応方法を習得するために実施する。小学校四年生以上の児童生徒、学校教育関係者、PTA関係者、地域住民五十人程度が参加対象。町の防災訓練と連動して行う予定で、厚岸少年自然の家に訓練参加者が避難することになっているところから、避難者の受けや誘導を体験するとともに、訓練に設営・撤去や災害図上訓練、仮設風呂入れ等の体験活動。有識者による講演などを行うことを計画している。これらの計画報告を受けた、委員として出席した今尚道教育大学教育学部准教授が助言。「参加体験学習のサイクルをつくる。一つ一つの体験を通して、どのような役割を担うべきかを考え、実践する。その中で、子どもが主体的に取り組むことが大切。体験活動を通じて、子どもが主体的に取り組むことが大切。体験活動を通じて、子どもが主体的に取り組むことが大切。」

# 高校生リーダーが研修



防災キャンプに参加する高校生の役割を確認したリーダー研修会

## 17日から初の「防災キャンプ」

### 壮瞥

壮瞥町久保内小学校を会場に、17日から2泊3日の日程で行う壮瞥初の「防災キャンプ」の高校生リーダー研修会が2日、町地域交流センター山美湖で開かれた。

(菅原啓)

防災キャンプは、将来の有珠山噴火に備えて小中学生を中心に、避難生活の体験や自然災害についての学習を通して、災害に対応する力を身に付けるのが狙い。町教育委員会が初めて実施する。

高校生リーダーは参加する児童生徒の活動を見守り、助言や指導、注意喚起、体調を把握する役割を担う。今回は壮瞥高校の1、2年生10人が務める。研修会ではキャンプの目的、スケジュール説明のほか、胆振教育局の五十嵐晋教育支援課長が「1対1でなく、1対集団を意識した行動、判断で小中学生を守ってほしい」と高校生らしいリーダーシップを求めた。

岡田弘北大名菅教授、町防災会議専門委員の三松三朗さんによる自然災害への備え、有珠山噴火についての各講義を受けた。清水悠吾(15)は「初めての経験でやってみないと分からないが、小中学生や自分にとっても良い経験になるよう頑張る」と意気込んでいた。研修会は9日にも実施する。

つて一生の思い出に残る3日間にした」とあいさつした。

交流会では両校の生徒がペアを組み、お互いを紹介する「他己紹介」や、伊達高生が考えたゲームなどで初対面の緊張をほぐし、友情を深めていた。

巨理高の生徒らは日まで滞在し、昭和山登山や巨理町から住したイチゴ農家をまわるとの武者山車、馬糞陣立ての各プログラムに伊達高生と一緒に参加する予定。

(菅原啓)

13 室蘭

2012年(平成24年)8月7日(火曜日)

北



専門家らから、キャンプに臨む心構えなどについて学ぶ高校生

## 17日から防災キャンプ

### 壮瞥

【壮瞥】地域防災に始まるのを前に、キャンプでリーダーを務める高校生10人を対象にした研修会が町地域交流センター山美湖で開かれた。

流センター山美湖で開かれ、専門家から心構えを学んだ。研修会は2日に開かれ、町防災アドバイザーの岡田弘北大名菅教授らが噴火の脅威について説明。

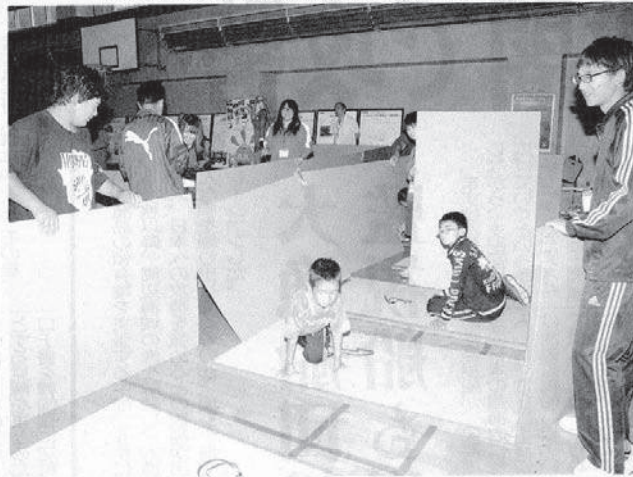
胆振教育局の五十嵐晋教育支援課長は、東日本大震災の津波で、岩手県釜石市の小中学生が自主的に避難して無事だった「釜石の奇跡」を紹介し、「高校生として何ができるかを考えてほしい」と伝えた。高校生向けの研修会は9日にも開かれる。

キャンプは文部科学省が全国で進める事業で、壮瞥は2泊3日の日程。期間中、大人や小学生を含めた参加者29人を4グループに分け、高校生がグループリーダーを務める。

(五十嵐俊介)

マイたうん 室蘭

照明がない状況で体育館に避難所を設営するキャンプ参加者ら



# 防災キャンプスタート 避難所生活など体験

H24.8.18(土)  
北海道新聞

が計  
各目

## 小中高生 生きる力育む

### 壮 警

有珠山噴火などの自然災害を想定した壮警町防災キャンプ(町教育委員会主催)が17日から、久保内小学校を会場に2泊3日の日程で始まった。小・中・高校生を中心に約40人が、避難所生活などの体験活動を通して、考えて行動する力や災害を生き抜く力を養う。

(菅原啓)

文科科学省が生リダーとして参加  
防災教育の一環としているほか、昨年の  
で全国の自治体 東日本大震災に被災し  
に委託している 大宮市東釜石市の元職  
推進事業。直近 員、末永正志氏も特別  
の噴火当時、幼かった参加。津波から多くの  
り経験していない世代 小中学生や住民が逃  
を中心に、避難所生活 延び「釜石の奇跡」と  
を体験しながら自然災 して反響を呼んだ防災  
害を学び、求められる 教育の推進者が、ライ  
行動や各自の役割を考 フラインが途絶えた状  
える。 況で、350人の被災 校生リダーが中心と  
キャンプには、壮警 者と過した3日間の  
高校の生徒10人が高校 避難所の体験談を語つ

た。 初日はこのほか、電  
た。 2日目の18日は、昭  
和神山登山や気象実験  
を実施する予定。午後  
3時からの末永氏によ  
る講演「生きる力を育  
む」は、一般聴講も可  
能。

司南明

## 災害時の心構え キャンプで学ぶ

壮警の小中高生25人

【壮警】地域防災の  
中心となる若者を育て  
る「防災キャンプ」が  
17日、町内の久保内小  
体育館で始まった。地  
元の小中高生計25人  
が参加し、体育館に実  
際の避難所を設営。19  
日まで2泊3日の日程  
で、災害時に自分と周  
りの人の命を守るため  
の創意工夫を学ぶ。



道危機対策課の職員から  
防災への活動を聞く参  
加者  
いるが、泊まりがけで  
開くのは大人対象の訓  
練でも珍しい。  
今回は、大震災で多  
くの小中学生が助かり  
「釜石の奇跡」といわ  
れた右手県釜石市の元  
消防防災課長、末永正  
志さんも参加した。  
17日の講話で末永さ  
んは、災害に備えた学  
習を積み重ね「正しい  
情報を知り、正しい判  
断と行動をしなければ、  
避難はできない」と  
話した。

また、避難所は「創  
意工夫の場になる」と  
して、「暗くならず、  
物が何もないことを案  
む。(平山栄嗣)

しめるようでなけれ  
ば」と強調した。  
キャンプは、町防災  
アドバイザーの岡田弘  
北大名誉教授や、町防  
災会議の三松三朗専門  
委員らの指導で、火山  
や風水害の学習など十  
数項目の活動に取り組  
む。

# 災害時の避難方法学ぼう

## 火山と共生する町で防災キャンプ

有珠山のふもと、壮瞥町で、地元の小中高校生が参加する「防災キャンプ」が開かれた。過去100年で4度の噴火を経験した「火山」と共生する町で、東日本大震災を教訓に避難所暮らしを体験しながら、災害時の避難の仕方学んだ。

### ■普段の備え大切

釜石市では東日本大震災で死者・行方不明者1000人超を数え、今年度から始まった。同町立久保内小で今月17日から泊3日、保護者を含めて30人が参加した。初日は岩手県釜石市の元防災消防課長、末永正志さんが講演。

釜石市では東日本大震災で死者・行方不明者1000人超を数え、今年度から始まった。同町立久保内小で今月17日から泊3日、保護者を含めて30人が参加した。

釜石市では東日本大震災で死者・行方不明者1000人超を数え、今年度から始まった。同町立久保内小で今月17日から泊3日、保護者を含めて30人が参加した。



新教育の森  
ほっかいどう

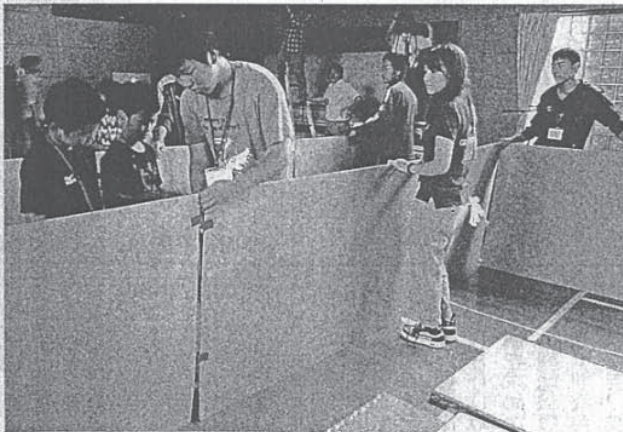
「千々部一好」

末永さんは被災当時のスライドを見せながら「釜石小では高学年が低学年と一緒に避難するなど、学校で身に着けた知識を基に災害時にしっかりとした行動ができたことが被害を最小限にした」と、防災教育の大切さを訴えた。また、町の防災アドバイザーを務める岡田弘・北海道大名誉教授は「どこにどのような危険があるかといったハザードマップを頭に入れ、日ごろから訓練することが大切」と、普段からの備えを強調した。

## 壮瞥町 小中高校生が震災教訓に

### ■避難所生活体験

避難所の生活体験は体育館に、町が備蓄する畳や段ボール、毛布



防災キャンプで、段ボールを使って避難所づくりを行う小学生ら。壮瞥町の久保内小学校で

を持ち込み、参加者が4班に分かれて設営。電気・水道は使用禁止で、夕食用に乾パンとペットボトルなどが配られた。

夕食の前、地元で火山ガイドなどをする加賀谷仁左衛門さんがツナ缶を使ったろうそくを実演。「ツナ缶は

油漬けされているが、加賀谷さん。参加した久保内中3年の近江陸さんは「東日本大震災の被災者の気持ちがほんの少し分かった。普段とだけ違って、上持ち、缶が温められたか、体験できた」と話した。

### ■幅広い知識深め

世界的にも活発な火山として知られる有珠山は、77、78年に4度の大噴火を含む十数回の噴火があり、泥流被害で死者・行方不明者3人の被害が出たほか、00年には噴火予知が成功して死傷者はなかったものの、周辺3市町の住民約1万6000人が最長1年以上にわたって避難生活を余儀なくされた。

田鍋敏也教育長は「将来を担う子供たちに自然災害への正しい知識と、起きた時の正しい行動を学んでもらえるよう、今後も防災教育を普及する活動に力を入れていきたい」と話している。



【室蘭発】二十四年度文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」の壮瞥町防災キャンプが十七日から三日の日程で、壮瞥町立久保内小学校（竹本啓二校長）などを会場に開催された。壮瞥高校の生徒十人と壮瞥町内の小中学生十四人、保護者など七人、計三十一人が参加。ライフライン途絶下での体験学習や洞爺湖有珠山ジオパークでのフィールド活動などを通して、災害時の正しい知識や行動を学習した。



火山実験を体験

## 災害時の知識や行動学ぶ

### 文科省 壮瞥町防災キャンプ開催

時の対応等の理解、学校を避難所とした生活体験などからなる防災キャンプを行い、防災教育の観点に立つた青少年の体験活動を推進するもの。実施市町村は壮瞥町と厚岸町。成果は「全道防災教育研究フォーラム」などを通して普及を図る。

実行委員長を務めたのは、町防災学識アドバイザーの岡田弘氏。副委員長は町防災会議専門委員の三松三朗氏などが務め、防災に関する正しい知識や行動を集めて、防災に対する「皆さんの知識、思い、期待を寄せた。」と期待を寄せた。

このあと、体験活動として北海道防災ヘリコプター状況の中、高校生はリーダーとして参加者を見事に呼びかけた。

「はまなす号」救助訓練の必要性を呼びかけた。

初日の開会式では、はじめに壮瞥町教委の田鍋敏也教育長があいさつ。「今回防災キャンプで身に付けるのは、将来に向けて非常に役立つもの。防災への適切な知識を深めてほしい」と期待。特に、高校生には「リーダー研修会の経験を生かしてほしい」と述べ、

見学を行う予定だったが、天候が悪く、ヘリの出動が困難となったため、防災への活動紹介DVDを視聴した。

講話に移り、岡田氏と三松氏が過去に起きた有珠山町の火山について学習した。

午後からは、気象実験などを行ったあと、避難所を想定した活動を展開。高



有珠山ジオパークでフィールドワーク

生メカニズムを楽しく学をつくり上げた。また、チヨコレットなどの食材を使った火山実験で火山噴火のメカニズムなども学習した。

最終日は、防災施設の見学と地震体験を実施した。三日間のキャンプを終えた。

夜には、みんなで協力知識を深めるとともに、適切な行動を身に付けた。

平成25年1月17日【木曜日】

北海道通信

(第三種郵便物認可)

(4)

# 生きる力を育む防災キャンプ 壮警町教育委員会

【本報】青木大輔校長 防災教育に力を入れる自治体や学校増えるが、避難所の問題に悩む壮警町は昨年11月にこの防災キャンプを企画した。昨夏八月は、文部科学省防災事業「避難訓練マニュアル」をこの防災キャンプの企画。参加した町の児童生徒は、消防水を使った避難生活体験や昭和新山有珠山の「アールパーク」を体験した。また、道の駅「壮警」より有珠山を展望する山頂展望台の未体験がポイント。参加者は自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

## 自ら行動し生き抜く力育成

壮警町は、避難所問題に悩む自治体が増える中、昨夏八月に、文部科学省防災事業「避難訓練マニュアル」をこの防災キャンプの企画。参加した町の児童生徒は、消防水を使った避難生活体験や昭和新山有珠山の「アールパーク」を体験した。また、道の駅「壮警」より有珠山を展望する山頂展望台の未体験がポイント。参加者は自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

防災教育に力を入れる自治体や学校が増える中、避難所の問題に悩む自治体が増える。この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

### 絆の大切を体験

#### 参加者アンケート

防災キャンプの防災キャンプ体験が、防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

## 正しい情報で正しい判断を

防災キャンプの中で、正しい情報で正しい判断をする。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。



この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。



### 子どもと郷土を愛する

壮警町は、昭和新山の昭和新山の噴火を体験し、防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。



### 郷土への感謝忘れず 有珠山等の探検や登山

この防災キャンプは、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。参加者は、自然災害に備える防災意識を高め、防災生活に主体的に取り組む。

# 壮中だより

壮警中学校 平成24年8月31日 No. 6

## 壮警町防災キャンプ

8/17(金)～  
8/19(日)、2  
泊3日の日程  
で久保内小学  
校を会場に、  
防災キャンプ  
が行われました。  
本校からも2  
名が参加し、  
様々な体験活  
動や講話、宿  
泊を通し、防  
災の心得を学  
びました。



### 「津波てんでんこ」から学ぶ

壮警町立壮警中学校長 新 沼 潔

厳しい残暑が続く中、2学期がスタートしました。校舎に元気な声が戻ってきたことを心からうれしく思います。

夏休みの終盤、8月17日～19日に久保内小学校を会場として文部科学省の委託事業「防災キャンプ」が開催されました。本校の生徒や卒業生も数名参加していました。本町は有珠山と共生することが宿命の町であります。前回の噴火のときには本校の生徒はまだ赤ちゃんであり実感として噴火のことは知らないと言っているでしょう。あれから12年がたち、次の噴火への備えが不可欠な時期であると感じます。

「防災キャンプ」では「釜石の奇跡」と呼ばれ東北大震災において多くの命を救った津波防災の取組について元釜石市消防防災課長の末永正志氏のお話を聞く機会がありました。その中で繰り返しお話しされていたのは「自分の命は自分で守ること」「十分すぎるほどの備えをすること」この2つでした。釜石では津波の押し寄せる前に子どもたちが訓練通りに逃げ出し、多くの大人たちもそれを見て逃げて助かったということです。「津波てんでんこ」と言われる先人の教えに基づいた備えの結果でした。子どもたちは「あれは奇跡ではなく必然です」と言っていました。

本校では2学期から子どもたち一人一人の下駄箱にヘルメット・ゴーグルを配置しマスクも準備しました。さらに2学期中に噴火を想定した避難訓練も実施します。有珠山は突然噴火することはなく、予兆があり十分ゆとりを持って避難することができる山です。それでも備えることが何より大切であると考えます。

保護者の皆様は、ほとんどの方が前回の噴火で避難所などでの経験をお持ちのことと思います。その時の大変さや、大切なことを是非子どもたちにお話してあげてください。さらに、噴火したらどうするかを家族で話し合っておいてください。噴火の経験を次世代に伝え、備えていくこと、それが日本で第1号のジオパーク認定の大地に暮らすわれわれの責務ではないでしょうか。

長い2学期です。これからも本校教育へのご理解とご支援をよろしくお願い致します。



# 絆

久保内中学校  
学校だより  
第5号  
平成24年  
8月31日

## 学校教育目標

- 一、進んで勉強し大いに能力を伸ばそう(知)
- 一、力を合わせて明るい生活を築こう(徳)
- 一、命を尊び健康な心と体を育てよう(体)

## 生き抜く力を育てる ～壮警町防災キャンプから～

壮警町立久保内中学校長 高島康範

8月17日から3日間、「変動する大地との共生を目指して」をスローガンに、久保内小学校を会場に壮警町防災キャンプが行われました。ライフライン途絶下での避難所設営や運営の体験学習、昭和新山・有珠山フィールドワークなどを行い、壮警高校生のリードのもと、町内小中学生、保護者などが災害に負けずに生き抜く力を高めました。本校からも3名の生徒と教員が参加しました。

元釜石市消防防災課長 末永正志氏からは、「正しい情報(知識)、判断、行動が命を守る。」「行動へ導くには意図的・継続的訓練と教育が必要だ。」「想定にとられない。その時点での最善を尽くす。いざという時は自分が率先して避難し、他の人の命も守る。」などの話を聞きました。また、児童生徒たちが避難時や避難所において、助けられる立場ではなく、逆に他の人を助ける役割を果たした例を紹介していただきました。中でも印象に残ったのは、避難の緊急時は当然ながら、先の見えない不安で不自由な避難所生活において、「当たり前のことを当たり前にする」といかに大切であるかという話でした。挨拶をすることは、安否確認や健康状態を確認するのに欠かせません。家族のコミュニケーションと確認なしには「津波でんでんこ」は実現しなかったでしょう。その他、時刻・時間・約束を守ること、物を大事に使うこと、自分の可能性を拓き力を高める意欲をもつこと、自分でできることは自分ですること、協力し合うこと・・・などです。家庭・地域、そして学校で日常的に指導しているこれらの内容を、確実に子ども一人ひとりに身に付けさせることが、困難に負けずに生きる力を高めることだと改めて認識しました。(上掲の学校教育目標そのものです) 「地域づくりは人づくりから」、「人づくりは、学校・家庭・地域の協同事業で」。このことを基盤にして、2学期も全教育活動を通して、『生きる力』を育ててまいります。ご支援、ご協力をお願い申し上げます。



段ボールで避難所をつくりました



夕食は暗闇で乾パンとリッツです



ツナ缶で明かりをとりました



普段は登れない昭和新山へ



ロープウエーで有珠山へ



カレーは苦手なのですが...



岡田教授と一緒に夕食

末永氏のお話で「海を恨んでいない」という被災者の言葉がありました。火山の恵みによって生活しているといっても過言ではない私たちにも、この言葉はぴったりあてはまるのではないのでしょうか。自然の恵みは、時に自然災害へと一変します。しかし、現在は先人たちの努力や研究成果によって、非常時に備えることができるようになってきているのも事実です。久中から参加した中学3年生3名と教職員5名は、自然の中で生かされていることを自覚し、各自が防災の意識をもつようになることがいかに大切かを、体験を通して学ぶことができました。

壮警町防災キャンプの様子は、9月6日18:10からNHK総合テレビで放映される予定です。

# 壮瞥町防災キャンプ

8月17日(金)～19日(日)、夕張市内小学校にて壮瞥町防災キャンプが開催され、30名(小学生8名、中学生5名、高校生10名、保護者7名)が参加し、避難所設置やフィードバックなどの体験し、また防災に関する講話などで火山や防災の様子をスナップでご紹介します。



## 8月2日 高校生リーダー研修会

壮瞥高校の生徒10名が高校生リーダーとしてキャンプに参加。事前のリーダー研修会では三松氏や岡田氏による講演を聞き、有珠山や御蔵山などについて学びました。キャンプ当日は高校生リーダーを中心にグループで様々な体験を行います。リーダーの活躍も期待しています！

## 8月17日 体験活動Ⅱ：避難所設置体験

暑や毛布など必要なものを運び出し...  
リーダーを中心にグループで話し合い...  
完成!!

開会式	オリエンテーション	体験活動Ⅰ	体験活動Ⅱ	夕食	体験活動Ⅲ	体験活動Ⅳ	体験活動Ⅴ	体験活動Ⅵ	体験活動Ⅶ	体験活動Ⅷ	体験活動Ⅷ	閉会式
8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)	8月17日(金)
壮瞥町立小学校にて壮瞥町防災キャンプを開催し、30名(小学生8名、中学生5名、高校生10名、保護者7名)が参加し、避難所設置やフィードバックなどの体験し、また防災に関する講話などで火山や防災の様子をスナップでご紹介します。	防犯ヘリ救助訓練見学(本紙で画により中止)	災害時の避難と避難所での生活を考える「講話」「グループワーク」避難所設置に挑戦	避難所設置体験	1日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食	2日目のふりかえり・昼食

## 8月18日

### 体験活動Ⅳ：洞爺湖有珠シオパーク フィールドワーク

みんな、足もと気を付けて  
ゆるでまご、おいしい!

体験活動Ⅴ：気象・地震・津波を学ぶ  
洞爺湖地方気象台による色々な現象が石われました。下の写真は、液状化現象の様子を学ぶ実験の様子

## 8月19日

### 体験活動Ⅵ：防災施設見学 (消防士署支署)

東日本大震災での体験談をみんな真剣に聞いています  
講演：「東日本大震災からの教訓」  
元岩手県釜石市消防防災課長 赤松正志氏

2日目の夕食：カレーライス作り  
調理には壮瞥高校から  
おいしくできましたー!

## 8月19日

### 体験活動Ⅶ：キッチン山学

洞爺湖防災研究機構職員の手導で、チョココレクトを拾って、噴火のメカニズムを学びました

壮瞥町防災キャンプ  
最後は全員で記念撮影!

## 8月19日

### 体験活動Ⅷ：非常食体験

ツナ缶やさくすくの味がりを頼りに非常食を食べました  
私はやっぱりキャンプファイヤー

壮瞥町防災キャンプ  
最後は全員で記念撮影!

## 8月19日

### 体験活動Ⅷ：火おこし体験、キャンプファイヤー

壮瞥町防災キャンプ  
最後は全員で記念撮影!

2泊3日の防災キャンプ。参加者の皆さんにとって、様々な体験活動や講演を通して防災や火の噴火について考える貴重な経験となったようです。また、高校生たちもリーダーとしてしっかりとグループをまとめていました!

## 壮瞥町防災キャンプ事業報告書

発行年月日 平成25年2月15日

発行 壮瞥町教育委員会

〒052-0101

北海道有珠郡壮瞥町字滝之町 287 番地 7

電話 0142-66-2131

FAX 0142-66-2132